

関 済 協

関西済州道民協会 会報

第6号

1999年7月10日発行



【主な内容】

◎ 特集・日韓併合前夜--(補遺)済州島民渡航史

◎ 第6回総会 記念講演『二重文化に生きる』 ◎ 賛助広告



会旗の説明

関西濟州道民協會の会旗（写真）は創立總會の席上、濟州道知事より贈呈されたものです。

会旗の円は太陽、統合、和合を表し、三太陽は三多（石・風・女）、三無（泥棒・乞食・大門）、三清（澄んだ水・澄んだ空気・澄んだ人心）を表しています。また四隅は四団体の合心、すなわち統合を意味しています。

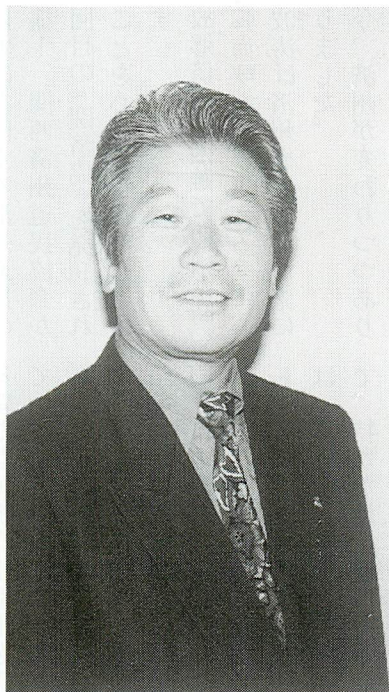
図案制作者は濟州大学美術学科教授の文基善氏。同氏は一九三五年に濟州市で生まれ、六〇年ソウル大学校美術大学卒業、六五年濟州道旗図案、八〇年濟州道文化賞受賞、八四年第一三回全国少年体典聖火台製作、八八年ソウルオリンピック寄聖火台製作等々、斯界の第一人者です。

◇題字「関済協」は康忠男名誉会長の直筆です。

◇表紙の写真は「山房山」の景観です。

愛郷心の強い方々に 守られ、支えられている 関済協はますます発展

ご挨拶 会長 梁 斗 京



光陰矢の如しと申すので、金であります。これまで、役員しようか、またたくまに一年各位の負担で運営してまいり半が経過しましたが、昨年度ました、会員各位からの会費もお願ひしてどうかとの声もあがり、そこで理事会でまた初めての全国体育大会など、まことに行事の多い年であります。関済協が誕生して早や五年が経過し、その間、内外の多大なるご支援、ご鞭撻により大過なく運営されてまいりました。私の任期も後半年余りとなりましたが、力ある限り頑張り、皆様の期待にそうべく種々の事業を積極的に展開していきたいと念じている次第であります。なにはともあれ、先立つものはお

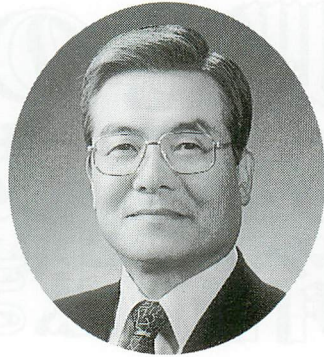
思えば、康忠男初代会長は

「歩きながら考えよう」との理念のもと、関済協ビルをはじめとする組織基盤を確立され、呉辰成二代目会長は「楽しい組織づくり」をモットーに婦人会を設立されました。三代目会長としての私に課せられた任務は、子女の結婚問題解決だと確信し、「結婚情報センター」を設立し、婦人会が主催する「若人の集い」等の行事とも連繋して相応の成果をあげてまいりました。周知のように在日同胞社会は、国際結婚の比率が高まり、同胞同士との結婚が極端に減少しております。これは、郷土が、子女にとって遠くなりつつあり、民族的なもの失われつつあるということに他なりません。石と風と女の三つが多いことから「三多の島」と呼ばれてきた濟州道は昔は貧しく、それが故に日本に渡来した一世は身を粉にして働き、困難な環境にめげず生活基盤を営々と築き上げてきました。そして、強い愛郷心のもとに郷土濟州道の親族や、あるいは村々に支援を続け、あるいはミカンや苗木などを送ったりし、そうした在日同胞の熱い郷土愛の支えなどもあって、現在の濟州道は豊かになり、韓国でも一、二を争う高所得の地域となりましたが、そうした郷土の歴史は決して忘れてはならないものだと思います。

バブル崩壊後十年が経ち、公的資金の注入等なんとか立て直すつもり政策が打ち出されているとはいえ、中小企業にはまだまだ明かりが見えておりません。関済協の皆様におかれましては、何かと大変ではありますが、この時期を耐え忍び、越えていけば、すばらしい時期もまたくるものと確信しておりますので、共に頑張っていきたいと思っております。

二一世紀は目前に迫っております。「IMF時代」と称され、忍従を強いられた祖国も、暗いトンネルを抜け、明るい陽が射しつづつあります。日韓共催の二〇〇二年サッカーワールドカップの後援会も昨年設立されました。競技場の一つが濟州道の西帰浦市にも建設されます。これに対して私達もさらに力を結集して応援していきたいと思う次第であります。

国際自由都市をバネに 21世紀は「漢拏の奇跡」を



濟州道知事
禹瑾敏

日本に在住する濟州道民の皆様！ 関西濟州道民協会が6回目の『関済協』を発刊されることを心より祝賀申し上げます。

故郷濟州が困難であった時、対韓海峡を飛び越える愛郷心の波濤は濟州発展の活力素になりました。

今、濟州が変わりつつあります。国際自由都市を建設しております。

新しい千年は「希望の島」濟州が「世界の中の希望峰」になるよう温かい関心と参与をお願い申し上げます。

いつでも、故郷濟州のために献身しておられる梁斗京関西濟州道民協会会長と関係されるすべての方に深い感謝を捧げ、皆様すべてが日本に向かったその時の青雲の夢を必ず成就させることをお願いします。

二一世紀の 濟州道ビジョン

二一世紀の濟州ビジョンは、濟州道を東北アジアの拠点として飛躍することです。香港が中国に帰属した後、外国投資家達は東北アジアに投資す

る新たな国際自由都市を探しています。中国は上海に、マレーシアはラブアンに、日本は沖縄に国際自由都市開発を急いでいます。わが濟州道も

国際自由都市開発を急がなければふたたび辺境に転落してしまうのであります。濟州道は「島」という地理的な特徴

で、特殊な地位確保が可能であり、国際自由都市開発に最適な条件をもっています。国際自由都市を開発するためには

ヒト、カネ、モノの自由な移動ができるように法令と制度の改善が必要であります。我々は政府、地元国会議員

などと協議し、空港、港、情報通信、コンベンションセンターなど社会間接資本を早めに拡充し、国際大学院の設立などを通じて専門的知識を身につけた人材を養成していきます。

尊敬する関済協の皆様、わが国が一九七〇年代「漢江の奇跡」を生んだように濟州道も二一世紀「漢拏の奇跡」を造り出すよう一〇〇万内外同胞の皆様が力をあわせて元氣いっぱい頑張りましょう。

禹瑾敏知事就任祝賀訪問団



1世が苦勞した道を
若い人はいささかでも
知る必要がある

韓日友好親善の
架け橋として、また
日本社会の一員として

祝
辞



関西興銀会長
李 熙 健
(济州道名誉道民)

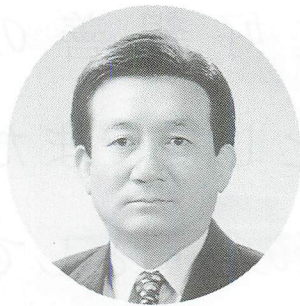


駐大阪総領事
尹 迫 奎

大阪を中心とした関西地域は、在日同胞の半数近い三十万人の同胞が住んでおられ、その中でも济州道出身者は約八万人といわれております。そのような背景にあつて、関濟協はもつとも大きな道親睦団体として、今日にいたるまで、故郷の発展と韓日両国間の友好増進に大きく貢献されてこられたことは高く評価されるものであります。特に昨年の秋、金大中大統領の日本公式訪問の折には皆様の暖かい御支援によって、大きな成果を収めることができましたことに厚く御礼申し上げます。金大中大統領の訪問によって、長年の懸案である韓国人の法的地位や貿易不均衡問題、日本文化の開放などがあらたな進展を見せていることは嬉しいかぎりでございますが、このような雰囲気をもより発展させていくためにも、われわれはよりいっそう努力を積み重ねていかなければなりません。同胞社会の各階各層で活躍される皆様方はこのような両国関係の緊密さと、重要性を認識され、二一世紀の韓日両国関係がよりいっそう発展していくため、友好親善の架け橋として、また責任ある日本社会の一員として大きな役割を果たされるよう期待しております。終わりに関濟協の更なる発展をお祈りします。

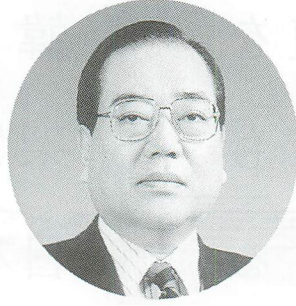
金大中大統領が日本にきたただけで、日本人はこんなに変わるのかと、今さらながら驚いております。日本人は協調性の強い民族で、五〇数年前は国民が全部協力して、大変な戦争を起し、近隣諸国に迷惑を掛けたこともありすが、今は民主主義の時代で、隣の国と仲良くすることは良いことだという世論のもと、ギクシャクしていた韓日関係はびつくりするほど変わりました。私は古臭い一世ですが、その一世がどういう苦難の道を通ってきたかを、若い人たちはいささかでも知る必要があるのではないかと思います。若い人たちは素晴らしい学校へ行つていますが、親の教育に対する情熱がどれくらいであったか、現在の生活基盤をどのよう築いたかも是非とも忘れずにおつてほしいと思います。そして、コンプレックスを感じずに日本社会で堂々と勇気を出して生きて行つて欲しいと思います。

関濟協ほど立派に団結して



ハンナラ党国会議員

邊 精 一



ハンナラ党副総裁国会議員

梁 正 圭



国会議員

玄 敬 大

祝

辞

異国の地日本で、祖国と故郷
濟州の発展と在日同胞の地位向
上のために尽力しておられる梁
斗京会長と任員皆様の労苦に敬
意を表します。

第6号関西濟州道民協会報を
発刊され、真心より祝賀申し上
げ、私に祝辞を述べる機会を与
えて下さいまして感謝申し上げ
ます。

私は、ハンナラ党李会昌総裁
秘書室長を経て、現在は政治改
革特別委員会委員長としての職
責を十分に遂行して、故郷濟州
道と大韓民国の政治発展のため
に傾注し、在日同胞の權益伸張
と地位向上のために国会次元で
のすべての努力を尽くしております。

今でも、我が関西濟州道民協
会が大韓民国と濟州道の発展に
大きな役割を果たしましたが、
地方自治時代の役割は特に重要
でより大きなものであることは
明らかであります。

濟州道の発展のために持続的
な関心を持ち、積極支援してく
ださることをお願いし、私に対
し常に声援と支援をしてくださ
る関西濟州道民協会会員皆様に
心より感謝申し上げます。関西
濟州道民協会会員皆様の家庭に
いつも健康と幸福が満ち溢れる
ことを祈願します。

かずかずの逆境の中でも、祖
国大韓民国と濟州人の矜持と
自尊心をかたく守ってこられ
ながら、濟州地域の発展に心を
砕いておられる関西濟州道民
協会梁斗京会長はじめ会員皆
様方の御苦勞に対し心より敬
意を表するとともに、今回『関
濟協第6号』発刊を心よりお祝
いたします。

皆様方の誠意あふれる御関
心と御声援のお蔭をもちまし
て、故郷濟州道は国際自由都市
指定等世界的観光地としての
名声をふるいながら、一層発展
をかさねております。なお、私
が副会長兼幹事長になってお
ります韓日議員連盟では、この
あいだの99合同幹事会議で、
在日韓国人の地方参政権問題
を最重点課題に選定し、その法
制化に向けて両国議員連盟が
最善をつくす旨合意いたしま
したことを、この場をかりて御
報告申し上げます。

今後とも従来にまして、故郷
濟州道をかぎりない御愛情と
御関心で見守ってくださるよ
うお願いいたしながら、関西
濟州道民協会の無窮なる発展と
会員皆様方の御家庭に御多幸
と御健勝をお祈り申し上げて、
私のあいさつといたします。あ
りがとうございました。

『関濟協』第6号発刊を10
0万内外濟州道民と共に祝賀い
たします。

祖国大韓民国と郷土濟州道に
対する変わる事のない愛情
で、多大に尽力されてきた関西
濟州道民協会の梁斗京会長に深
い敬意を表し、任員および会員
皆様に感謝の言葉を捧げます。

異国で、いろいろな困難な与
件の中で、濟州人の気概と自矜
心を忘れずに、熱心に生活し
ておられる関西濟州道民は開拓精
神と不屈の意志を持つ真正な濟
州人であり、濟州発展を早める
牽引車であります。

その間、濟州発展と関連する
関西濟州道民皆様の役割と貢献
はいくら強調されてもされすぎ
ではありません。

どうか『関濟協』第6号発刊
が会員間の紐帯強化と親睦図謀
に大きく寄与することを祈念し、
よりよい明日を提示して新し
い出発に貢献する関西濟州道
民の真の会報として主導的な役
割を果たされることを期待しま
す。

関西濟州道民皆様の健康と事
業繁昌を真心より所望し、関西
濟州道民協会の無窮なる発展を
祈願します。



第6回定期総会を開催 会費・賛助金協力に感謝

〔第六回定期総会〕

関西済州道民協会の第六回定期総会が一月十六日、大阪市天王寺区の都ホテルで開催された。国民儀礼、愛国歌斉唱、殉国先烈に黙祷した後、規約により梁斗京会長を議長に選出して議案審議を行った。会員総数六一四名中、本人出席一九七名、委任状一三八名が出席している旨が宣せられ、書記に李永哲専務理事が指名され、朴晶禧総務部長の司会のもと進められた。



総括報告が金聖大総務副会

長により、財政報告が高英寛
財政部長により、監査報告が
金成洙監査によりそれぞれ行
われ、異議なく承認された。続
く①新年度事業計画案(議案説
明)金良雄事業部長②新年度
予算案(高英寛事業部長)も満
場一致で可決された。

最後に安泰栄常任副会長が
閉会辞を述べ、「初代会長は歩
きながら考えて仲良くすると、
二代目会長は組織を楽しくプ
ラス思考で行うと、三代目会
長は行動を起して諸事を達成
するという理念で一生懸命頑
張っております。今後ともな
おいっそうのご支援ご協力を
よろしくお願いし、合わせて
前年度の賛助金協力に感謝し
ます」と締めくくり、第六回定
期総会を滞りなく終了した。

一方、総会に先だって在米
同胞の高全恵星女士による
「二重文化に生きる」と題する
特別記念講演(別掲)が行われ
た。講演終了後、高全恵星女士
に金善済婦人会長より花束が
贈呈され、梁斗京会長より記
念品が贈呈された。このあと
「今年の済州道の道政方向につ
いて」、約二〇分間にわたりス
ライドが上映された。



禹瑾敏濟州道知事より心温まる贈り物

総括報告

(金聖大総務副会長)

祖国は、予期もしなかった経済危機に見舞われ「IMF時代」と称される忍従の時代にあります。新しく就任された金大中大統領は、国民の大和合によって、この困難を克服していくことを内外に闡明されました。私たちが在日同胞も「国難克服の一助たらん」との気概もって、祖国と連帯し「IMF時代」を乗り切つていきたいと思ひます。

さらに、郷土濟州道は、独特の耽羅文化と雄大な自然を誇りあらゆる面において飛躍的な発展を成し遂げています。一九九八年度は多彩なるイベント濟州世界島文化祭「島いとも青い未来の為に」をテーマに、世界二五カ国が参加する文化祭を濟州吾羅觀光地区を会場に開催されました。また、第七九回全国体育大会に関西濟州道民協会が在日同胞選手団引率を引受け、康忠男名誉会長を団長とする一六名の引率役員を構成し、例年に見られないほど立派な大会となりました。(海外同胞部門で三年ぶりに優勝)

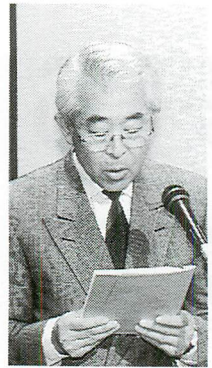
會議所会長、李正林関西興銀

の「家」理事長

〔祝電〕

禹瑾敏濟州道知事・朴勝蓮 理事長、金一龍大阪商銀理事
夫人、尹迺奎駐大阪総領事・金 長、金孝晃済民日報会長、趙孟
慶順夫人、李熙健関西興銀会 株同編集局長、金漢昱濟州道
長、洪性仁韓国民団大阪本部 庁企画室長、金鍾相大韓航空
団長、金英宰在日本大韓体育 大阪支店長、田内文恵「心の家
会会長、李相均大阪韓国商工 族」施設長、朴善喜「セットン
長、濟州商工会議所

金聖大総務副会長



高英寛財政部長



金良雄事業部長



金成洙監査



本協会が在日道民の良き拠り所となるように、これからも多大の労力をいとわず、熱意を燃やしつづけながら、さらに邁進していきたいと思ひます。

新年度 事業計画案

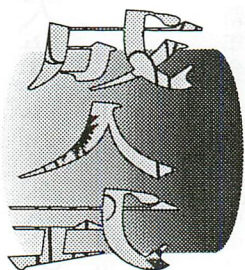
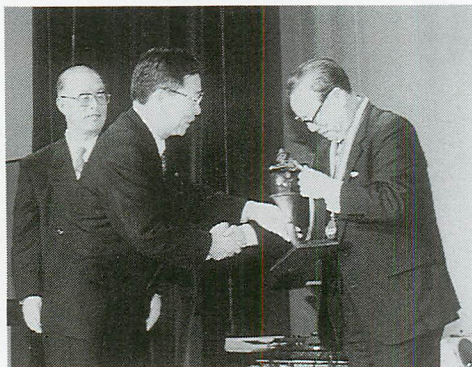
(金良雄事業部長)

本協会発足以来早六周年を

迎えますが、この五年間に収めた事業成果を基礎に、九九年度は更に会員の親睦の和を第一の目標としながら、組織の強化を図りたいと思ひます。また、本会に対して内外から熱い期待が寄せられていることを十分に考慮し、各種事業内容の充実を図るなど、効率的な運営を目指して、一九九九年度の事業を次のように設定致します。①総会・新年会・成人式②講演会③会員懇親会④趣味同好会⑤敬老会⑥郷土の紐帯強化事業(郷土夏季学校・漢拏文化祭等)⑦機関誌発行⑧婦人会・青年会育成⑨その他の事業



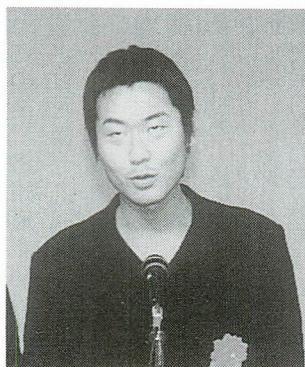
新年会



〔新成人〕

金慶美(金沢よしみ・相愛短期大学二回生)、慎幸恵(真田さちえ・同志社女子大学短期大学部二回生)、韓俊雄(池田

としお・国立ウイーンアカデミー美術大学一回生)、白真紀子(白川まきこ・同志社大学商学部二回生)、呉泰弘(岡村やすひろ・近畿大学商経学部二回生)



〔お礼のことば〕

新成人代表 韓俊雄

成人者を代表してお礼の言葉

を述べさせてもらいます。

本日は済州道民協会をあげて、

このような盛大な式典を設けて

いただきました、あらためて二十

歳の重みを自覚しました。私

達は生まれてから二十歳にな

るまで、数え切れないほどの

多くの人と出会い、触れ合っ

て育てられてきました。一番

身近な家族、学校、地域、そし

て職場、人の中で生活し、人と

ともに生きてきました。

今後は外国に住むものとし

て、互いに助け合い、民族の誇

りのを失わないよう、生きて

いきたいと思えます。どうか

皆様、立派な韓国人、人間にな

れるようにこれからもご指導

ご鞭撻のほどよろしくお願い

申し上げます。最後にこの記

念の日を祝っていただいた関

西済州道民協会の皆様にご心よ

り感謝を申し上げます、お礼の言

葉とさせていただきます。



在米同胞の
高金恵星女史が
記念講演

『二重文化に生きる』



中国人も日本人も
韓国人も
アメリカでは
区別なく東洋人

〔講演要旨〕

一五、六歳の時に母親とアメリカに移住した在日同胞の女性ですが、大阪に住んでいた時は、朝鮮と韓国だけ自分と関係がなければ助かるなど思い、アメリカではそんな問題がないだろうと考え、アメリカ移住を喜びましたが、中学校に入つて一カ月も経たないうちに「あんたは日本人？ 韓国人？ 中国人ね」と言われて、ショックを受けたという事です。二重文化に生きる人は何処へいっても、日

講師紹介

康 実文化副会長は講師の高金恵星女史を次の通り紹介した。

三男・高洪株氏は一九九八年一月にアメリカ國務次官人権担当に就任され、内外のマスコミを沸かせたことは記憶に新しいところであります。亡くなられたご主人の高光林氏は済州島出身で、アメリカ大使を務められまし

本であつたら日本人じゃない、西洋にいつたら白人じゃない、といつて差別されることを感じ、どうして、利口だとか、行儀がいいだとか、頭がいいだとか、そういうことは一回も言われないで、「・・・じゃない」という否定的なこと、韓国語ができないとか、発音が悪いとか、そういうことで評価されなければならぬのかと憤つておりました。大人は覚悟をもつて移民しましたが、アメリカで生まれた二世はそうではなく、生まれて見たら

た。そのような素晴らしい家庭です。ワシントンで開かれた家庭教育学術会議において、成功した代表例として発表されました。世界に韓国人の名譽を高めたと申し上げられます。

一人の女性として、また妻として、母として、輝いている先生のアメリカの、楽しくかつ有意義な話がたくさんきけるものと期待しております。「二重文化に生きる女性の視点から、アメリカの生活と教育を語る」という内容です。

差別をされるということ、差別に対する一世の腹立たしさ、二世の腹立たしさは全然違うもので、子供である二世には強い憤りがあります。また、文化の差のために悩む場合もあります。日本人が物干し竿を使つていないから、その部分に干したらひどく怒つたというのです。韓国では使用権と所有権が同じではありません。李朝時代は、土地があつて、所有者がそれを使わない場合は、公のために無駄だということで、政府にそれを届けて、他の人が耕すことができました。韓国人にはそれが慣習となつていて、他人が使わない物干し竿を使用することは当たり前という感覚ですが、日本人はそうではありません。所有権と使用権とは同一で、使用してない他人の物干し竿を使用する行為は凶々しい行為になるのです。これは文化の差です。このように韓国と日本は、似ているようで似ていないところがあり、それが分らないと、お互いに腹がたつて、折り合

いが悪くなつてしまします。大人は我慢をするかも知れないが、子供たちはアイデンティティー・クライシス、つまり自己に対する自信を失うという事で、戦後に出た言葉です。自分はこうだという評価を持つているのに、外の人が全然違つた評価を持つているという事を要求したとき、つまり自分が自分だと考えているのと、他の人が考えることが違つたときに、大変なショックを抱きます。そのショックは国際関係とも大きな関係があります。

韓国動乱の頃はアメリカの援助を受けていましたから、貧しい国、戦争の国というイメージでした。ワシントンで韓国人の大きな賄賂がおきた時は、アメリカでは年末年始に先生に小さな土産を持つて行くのが行儀正しいことですが、その時に韓国人生徒がそれをする、「これはいいだけない、あなたは韓国系でしよう」という具合でした。また、ベトナム戦争当時は、同じ東洋人ということでもベトナムに関する質問を要求されるという始末です。八八ソウルオリンピックの時は、韓国のことがテレビに頻繁に出るよ

世界に認められる美德を探して 実践すれば周囲から尊敬される

うになり、韓国人はたいしたものだ、文化もたいしたもの、現代の自動車も入ってきたし、サムソンのテレビも入ってきたし、韓国人は偉いという評価になりました。ロス暴動の時は、日本人の町があつたにもかかわらず、そこを素通りしてコリアタウンにきて、放火したりして全滅させました。あの時の韓国人はお金の亡者(もうじゃ)という悪いイメージがメディアから出たからでした。このように、自分自身がいくら真面目に生きていても、国際的な問題が生じることによって、その評価が上がったり下がったりし、

その結果として、アイデンティティー・クライシスに直面します。それでは、そのような問題にどう対処していけばいいのでしょうか。まず、韓国の歴史は、アメリカの歴史の二〇倍という長い歴史を持ち、いいのがあるあり、その韓国に対するイメージをしっかりと持つことです。そうすれば、現実がどうであれ、それに戦うことができます。

私が東洋人として誇りにしていることは、小さい時に母から「自分の才能よりは人徳がもっと高くなければならぬ。だから、才能が人徳を越えたらだめだ」と何回も聞かされたことです。これは、西洋では一回も聞いたことがありません。すなわち、賢ければかしいほど、もっと人徳を深めなければならぬということなのです。韓国には、世界に認められる美德が多々あります。私たちはそれを探して実践し、実践していれば、ほかの人にも尊敬されるようになります。何かプラスになる人になれば、差別もだんだんなくなると思えます。国務次官になつた三男がどうしてあんなに有名になつたのかと言いますと、韓国人を狙い撃ちしたロスの暴動の時、三男が黒人のために命をかけて最高裁判所に何度も行き、黒人を救つたからです。その噂が広まり、黒人指導者達が「東洋人が東洋系の人をいじめた黒人を助けた。韓国人は悪い人間じゃない」と評価しました。

濟州島といえば、韓国の玄関です。ジンギス汗が来襲(約一〇〇間統治)した時の風俗が今なお濟州島に残っていて、

半島(陸地)には残っていないものがあります。濟州島の文化、韓国の文化が消えつつありますが、大阪・鶴橋に厳然と残っている場合が多々あります。濟州島の人が一番長生きすると言われていますが、そのノウヤンシク(老養生)の立派な本があります。日本には隠居制度がありますが、韓国には隠居の制度はありません。しかし、濟州島では早く隠居する制度があります。その他、濟州島には民主的で現代的な文化がいっぱいあります。

濟州島は韓国の中でも少数民族で、差別を体で感じていると思います。そういう人こそが人権問題で弱い人達を助ける要素を持っています。現実に世界を舞台に活躍している人もおります。二一世紀の村落はみな遊牧民というのが私の持論です。日本にも住み、アメリカにも住み、中国にも住むということ、ニューヨークに住めば、韓国人は中国人ということになります。韓国人でも日本人でもそんな区別もなく、世界の舞台にでたら、まず中国人、つまり東洋人ということになり、二番目に男性とか女性かということですから、私は東洋人としてのアイデンティティーを強調します。遊牧民の血もある濟州島人は韓国の中でも特別です。世界に出歩く遊牧民の時代になって、私は濟州島人に非常に期待を持っています。私はソウル生まれですが、主人が濟州島、子供達がみな濟州島です。

二重文化を生きた人達は智慧が他の人の二倍あります。ですから、何かを決定する時に一味違う智慧を出すことができると思います。人種とか国家という概念はごく最近、一九世紀末に出てきた概念です。しかし文化という概念は三千年、四千年の歴史があり、中国、日本、韓国、ペトナム等々には通信使が往来し、互いに手をとりあい、文化を交換してきました。だから私もちもニューヨークへ行けばみな東洋人ですから、一緒に仕事をしましょうと少しばかり気持ちを広げたいものです。ベッチャン(度胸)をもって生きていけば、みなさんが認めてくれるのではないかと思います。

- 〔高全恵星女史 略歴〕
- ◎現職 米国エール大学校教授、東岩文化研究所理事長
 - ◎1929年 ソウル生、京畿女高卒業、梨花女子大(英文)2年在学中に米国デイキンソン大学編入、卒業
 - ◎1959年 米国ボストン大学大学院・人類学博士
 - ◎1985年 米科学財団基金100万ドル支援を受けて文化情報制度(HABS)体系開発
 - ◎1988年 米ワシントン家庭教育学術会議で成功的家庭教育の代表例となる
 - ◎1990年 国務総理表彰
 - ◎1996年 在京都国際日本文化研究センター、国立民族学博物館客員教授
 - ◎著書 (1959)李朝時代の宗教、社会構造と経済発展、(1968)韓国に対する社会科学資源、(1972)米国での韓国人と韓国系アメリカ人、(1982)韓国と日本女性、(1991)米国と韓国の文化的側面で見えた貿易摩擦、(1996)エリートより人になれ



3世・4世が喜んで 訪問できる立派な 濟州道を造って下さい

▽▽▽禹瑾敏知事歓迎晩餐会△△△

関済協は一九九八年九月九日夕、都ホテル大阪で七十余人が参加したなか、禹瑾敏濟州道知事歓迎晩餐会を開催した。禹瑾敏知事は就任後初めての訪日で、金漢昱企画管

理室長ら関係職員と姜榮石濟州商工会議所会長、文洪翼同副会長らが随伴した。

金聖大総務副会長の司会のもと、歓迎辞に立った梁斗京会長は「いろいろな問題をクリアしていかねければならぬ困難な時局にあります。三世、四世が喜んで訪問できるように立派な濟州道を作ってください。そのためにも関済協は、故郷との関係がよりいっそう緊密になるよう全力を尽くしたい」と述べた。

これに対し、禹瑾敏知事は、バイコリアの際、あるいは関済協統合の際などの過去の訪日に触れながら、「IMF管理体制時代にありますが、外資を積極的に導入して、立派な濟州道を建設していきたい」と抱負を述べ、「今までみなさ

んが郷土のために電気施設、ミカンの苗木、村会館建設などいろいろな努力をしてくれたおかげで濟州発展に大きく役立った。このような貢献の足跡の記録を本にまとめ、子孫たちに永遠に継がれるようにしたい」と力説した。

この後、禹瑾敏知事から梁斗京会長へ記念品が贈呈され、金善濟婦人会会長から禹瑾敏知事へ、花束が贈呈された。(写真上) 続いて姜榮石商工会議所会長が来賓祝辞にたち、「濟州道がかつて大変苦しかった時期に、みなさんの助けが発展の基礎となり、二万ドル所得を目標に励んできました。そしてまた、経済危機にある困難な時に、愛郷、愛国心を発揮し、故郷を訪問してくれることが濟州の発展はもちろん、国家の発展につながります」と述べた。

康忠男名誉会長が乾杯の音頭をとり、和やかに歓談した。席上、道庁関係者により、在外同胞関連施策に対する説明があり、関連法律の改正により、帰化同胞や母親が日本人の場合でも法的に同胞扱いになることなどが簡略に説明された。

3年3ヶ月の任務を終えた金世澤総領事

盛大に歡送云



関濟協は一九九八年八月二
 一日夕、ホテルニューオータ
 ニで、外務部本部に帰任する
 金世澤駐大阪総領事歡送会を
 開催した。

李永哲専務理事の司会のも
 と、梁斗京会長が挨拶に立ち、
 「三年三ヶ月というのは実に早
 いもので、出会いは別れの始
 まりといいますが、実に淋し
 い限りであります」と述べた。



禹瑾敏知事～関濟協を訪問(↑) 生野地区を視察(↓)



金善濟婦人会会長も「韓日友
 好親善に御尽力され、御礼申
 上げます。いつも安堵感と
 信頼感を抱いております。
 御令室は誰に対しても変わら
 ぬ優しい態度で、本当に名残
 り惜しいと存じます」と別れ
 の言葉を述べた。

続いて総領事夫妻に花束が
 贈呈され、金世澤総領事は「大
 阪にきて三年三ヶ月、無事仕

事を終えました。これも皆さ
 んのおかげです。大阪地区の
 在日同胞は一八万、大阪市だ
 け一二万、そのうち八万が済
 州道の出身ですから、大阪は
 自分の国のような気がし、私
 は韓国、濟州道、大阪、と古里
 を三つ、つまり、一般的な大き

な韓国、永久的な濟州道、そし
 て大阪、私は他の人より三倍
 も古里をもて幸せだと思っ

ています。韓国は日本との友
 好関係が何より大切です。日
 本の社会には差別があります
 が、在日同胞の権益を確保し
 つつ、日本社会の構成員の一
 人となるよう願っています」
 と述べた。

この後、康忠男名誉会長の
 音頭で乾杯し、それぞれに別
 れを惜しみ、歓談した。

康忠男名誉会長が濟州大学校より
名誉経営学博士学位を授与される

授与祝賀会を開く

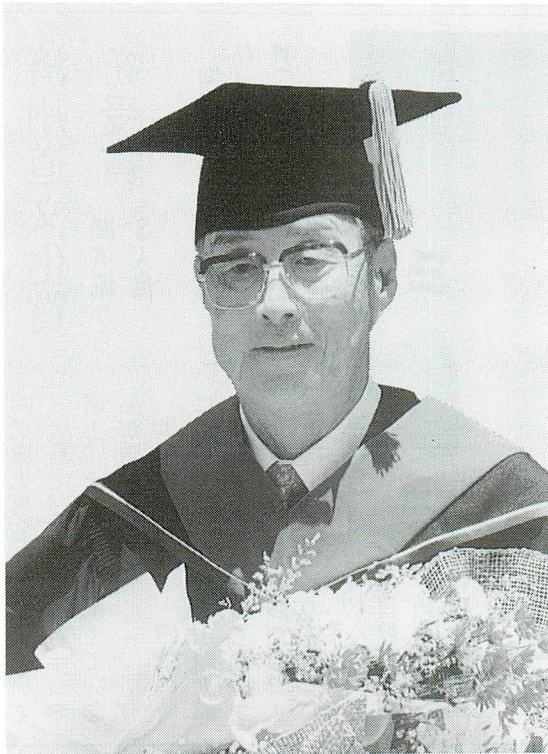
康忠男名誉会長が一九九八年五月二十日、濟州大学校開学四十六周年記念式の席上で「名誉経営学博士学位」を授与された。この榮譽に祝し、八月五日ホテルニューオータニ大阪で関濟協主催の祝賀会が開かれた。

梁斗京会長が挨拶に立ち、趙文富濟州大学校総長、金世澤総領事夫妻、洪性仁民団大阪本部団長、李熙健関西興銀会長、金英宰在日本体育会会長、等々の来賓各位の参席に謝意を述べ、電気・水道設備、

道路舗装など故郷の教育発展に多大に貢献、また濟州少年体育大会、ソウルオリンピック等にも積極的に支援し、さらには濟州四団体統合に尽力するなど、富士電線工業株式会社との創業者として日本の産業界に於いて揺るぎない地位を築き、その模範的な企業活動、社会活動が学生たちにとって今後の人生の指針になると高く評価されたことが、今回の授与となったことを紹介した。そして、私たちに

つてはこのうえない名誉であり、在日にとっても大きな誇りとなり、在日の生き方に大きな指針と励ましになると、康忠男名誉会長の業績を讃えた。趙文富濟州大学校総長、金世澤総領事、李熙健関西興銀会長（濟州名誉道民）がそれぞれ祝辞を述べた後、康忠男名誉会長に記念品（トルハルバ）と花束が贈呈され、祝電が披露された。康忠男名誉会長が「趙総長がお見えになり、来賓各位もお見えになって、感激しております。『あの人は韓国人だけど、いい製品を作っ

て、社会にも貢献している』と言われる会社にしたという理念で、まじめにコツコツとやってきたからこそ、今日の富士電線があると思っています。おかげで、自分の国を愛し、自分の故郷を愛するにふさわしい貢献もすることができました。名誉博士とは縁が遠いと思っていました。本当に有難うございました」とお礼の言葉を述べた。その後、洪性仁民団大阪本部団長の先唱で乾杯し、なごやかに談笑した。



濟州大学校より名誉経営学博士学位を授与された康忠男名誉会長

名誉博士学位授与の基準

————— 趙文富濟州大学校総長

国立大学の名誉博士というのは、外国の首脳級、たとえば大統領とか総理とか、そういうクラスの世界の歴史に残る方々に与えられるもので、濟州大学校の名誉博士第一号は同志社大学出身で、経済企画院院長、副総理を務められ、朴正熙大統領が亡くなられた後、大統領権限代行をなされた朴忠権氏であります。

私が総長になって、名誉博士学位授与の基準を考えなおしました。政治的よりも社会的、文化的発展に貢献した方、歴史的業績を積んだ方に与えることがもっとすばらしいことではないかと考え、資料をもって検討に検討を加えた結果、大阪では康忠男名誉会長がそれにふさわしいということになりました。

康忠男名誉会長の業績に対してもっと早い時期に名誉博士を授与すべきでしたが、私は、歴史的意義のあることをやったと誇りにしております。その業績は韓国人に尊敬されるだけではなく、日本人からも尊敬され、信頼されており、世界のすべての人類の先生になる生き方であると確信しています。富士電線工業の奈良工場と柏原工場を見学してその感をさらに強く、私の考え方が少しも間違っていないことを確信しました。

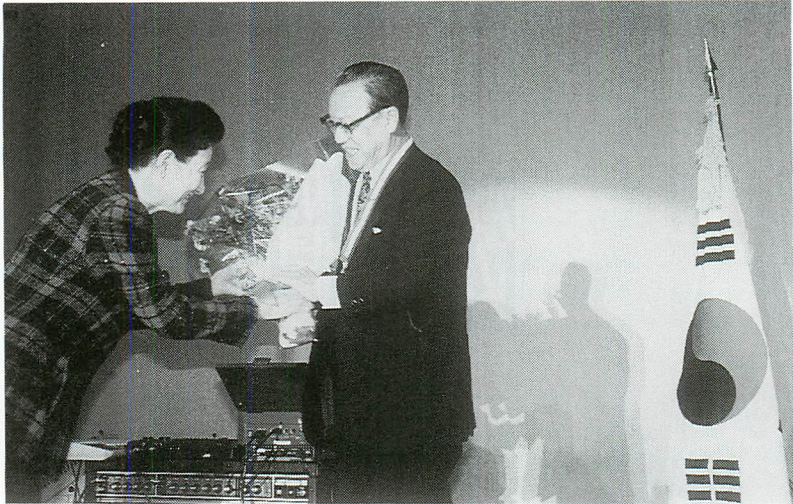
洪鍾淳顧問が 濟州道文化賞 を受賞

関濟協から
3人目

関濟協の洪鍾淳顧問(七〇)が一九九八年度の濟州道文化賞(地域社会部門)を受賞し、二月二二日濟州道庁におい

てその授与式が行われた。洪鍾淳顧問の受賞は、金容海顧問、康忠男名誉会長に続いて三人目で、関濟協の新年会席上、その栄誉を讃えて記念品が贈呈された。

洪鍾淳顧問は、一四歳の時に渡日し、二〇代で山崎会館を創業、企業家として活躍するようになった。熱烈な郷土愛の持主で、故郷の濟州道にはミカンの苗木や学習教材を送り、防衛誠金や体育大会などに賛助するなど、人一倍郷土の発展に尽くしてきた。



他の文化受賞者は朴行信(学術部門・六二・濟州大教授)、吳南連(教育部門・七三・前濟州道教育委員、文元培(体育部門・四六・濟州漢拏大教授)の三氏。

▲関濟協婦人会の金善濟会長から祝福の花束が贈られる洪鍾淳顧問

高基秀相談役が第7回 KBS海外同胞賞を受賞 濟州大学より名誉工学 博士学位も授与される

族のプライドを守りながら人類福祉増進と文化発展に尽くした同胞を選び、その業績を讃えるためにKBSが制定した賞。第七回海外同胞賞は二六ヶ国一五人の候補者の中から、学術・芸術・産業技術・社会奉仕・特別賞など五ヶ部門で各一人が選定された。

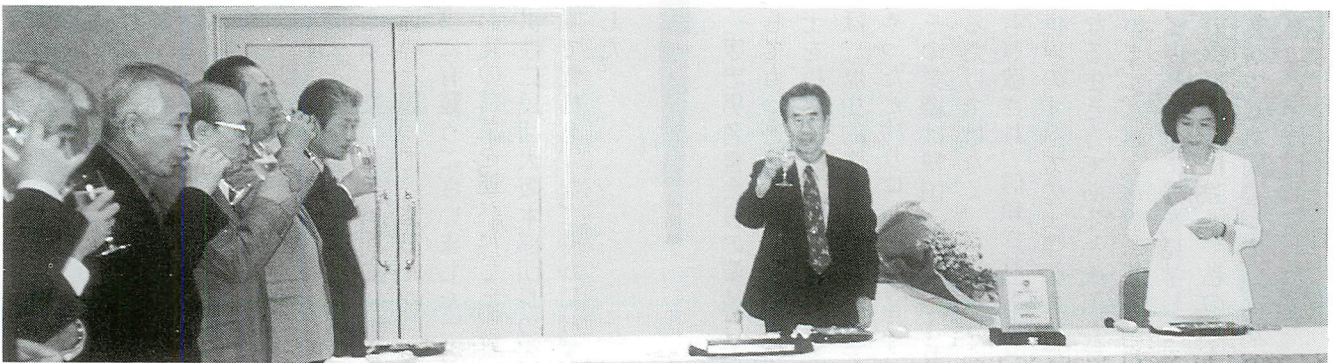
高基秀相談役は、濟州道北濟州郡旧左邑細花里の出身で、細花小学校、光州工業中学校を卒業、光州高校一年(一七歳)の時、韓国戦争が始まると渡日した。一九六〇年に早稲田大学を卒業し、五年後に「岩城電気工事」を創業した。一九七九年頃からコンピュータ分野の将来性に着眼、高電社を設立してハンゲルワープロの開発に努めた。八六年に韓国・三星グループの故李秉喆会長から依頼を受け、ハンゲル・フォントを供給した。(写真下は執行部主催の祝賀会)

濟州大学名誉工学 博士学位の榮譽に輝く

高基秀相談役は、受賞した一八〇〇万ウォンの賞金に一七〇〇万ウォンを追加して、KBS福祉機関に一〇〇〇万ウォン、濟州大の発展基金として一〇〇〇万ウォン、細花初等学校に一〇〇〇万ウォン、世界島学会に五〇〇万ウォンをそれぞれ寄贈した。

海外同胞賞は、世界各地で韓民

高基秀相談役は一九九九年五月二七日、濟州大名譽工学博士の学位を受ける榮譽に輝いた。ハンゲルワープロと韓日自動翻訳プログラムを最初に開発し、コンピュータ・ソフトウェア分野で韓日間の文化交流と理解促進に貢献していることが高く評価されたためである。





関済協は互いの 肩を寄せ合える 拠り所として

〔第九八―二回理事会〕

第九八―二回理事会が理事一六二名のうち本人出席七二名、委任状四七名の出席のもと十一月二十七日夕、大阪市天王寺区の都ホテルで開かれた。挨拶に立った梁斗京会長は、「済州道での初めての島祭り、初めての全国体育大会は大成りに終わったことを皆様とともに喜びたい。なにはともあれ、何かやるにしても先立つものはお金であります。今後、役員への負担を軽減する方向で、関済協の運営をご検討いただき、忌憚のないご意見を願いたい」と述べた。

朴晶禧総務部長の司会のもと、

総括報告（金聖大総務副会長）と財政報告（高英寛財政部長）が行われ、金性玉監査が監査報告を行った。続いて議案が審議され、（一）新年度事業計画案（金良雄事業部長）、（二）新年度予算案（高英寛財政部長）、（三）賛助金ならびに会費の件（洪正雄財政副会長）が原案通り満場一致で承認、採択された。

最後に安泰栄常任副会長が「関済協は、互いの肩を寄せ合える拠り所になるような会であってほしい」と述べた。



⇒ 朴晶禧総務部長



⇒ 金永柱厚生副会長



⇒ 洪正雄財政副会長

第九九―一回理事会が理事一六五名のうち本人出席六六名、委任状四九名の出席のもと三月十二日夕、大阪市天王寺区の都ホテルで開かれた。挨拶に立った梁斗京会長は、「総会を終わって二カ月が経過しましたが、昨年は、日韓共催による二〇〇二年ワールドカップの在日韓国人後援会が設立されました。競技場が西帰浦にも建設されることは喜ばしいことであり、協力しながら応援していきたい」と述べた。

朴晶禧総務部長の司会のもと、（一）会務報告（金永柱厚生副会

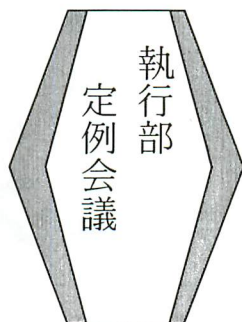


⇒ 李純安・(株)関済協監査



⇒ 朴信平厚生部長

長）、（二）事業計画（金良雄事業部長）、（三）追加予算報告（高英寛財政部長）、（四）財政確立（洪正雄財政副会長）、（五）(株)関済協決算報告（李純安・(株)関済協監査）等を報告した。最後に安泰栄常任副会長が閉会辞を述べた。



〔第八回執行部定例会議〕

第八回執行部定例会議が七月二十七日に関済協事務所で開催され、①康忠男名誉会長・済州大学校長名誉博士学位授与祝賀会②納涼会（文化部）③敬老会（厚生部）④第七九回済州国体等の案件が協議された。

〔第九回執行部定例会議〕

第九回執行部定例会議が八月二十四日に関済協事務所で開催され、①在日同胞故郷訪問団（厚生部）②納涼会③禹瑾敏知事歓迎晩餐会等の案件が協議された。また、青年会から映画「在日」（一部二部四時間）上映会におけるチケット購入

〔会務日誌〕 1998年7月～1999年6月

<7月>

- 6日 第7回執行部定例会議(事務所)
- 17日 98 済州世界「島」文化祭参加(済州道)
- 22日 緊急会長団会議(事務所)
- 27日 夏季学校結団式(事務所)、第8回執行部定例会議(事務所)

<8月>

- 2日 98回在日済州道夏季郷土学校開校(済州道)
- 5日 康忠男名誉会長済州大学名誉経営学博士学位祝賀会(ホテルニューオータニ)
- 11日 全国体育大会引率団・記者会見(都ホテル)
- 21日 金世澤駐大阪大韓民国総領事歓迎晩餐会(ホテルニューオータニ)
- 24日 第9回執行部定例会議(事務所)
- 25日 厚生委員会(事務所)
- 26日 厚生委員会(事務所)

<9月>

- 14～17日 在日同胞故郷訪問団(済州道)
- 15日 敬老会お祝い(記念品郵送)
- 20日 全国体育会・関西地区結団式(民団大阪本部)
- 25日～10月1日 第79回済州国体(済州道)

<10月>

- 12日 第10回執行部定例会議(事務所)
- 26日 99年度事業計画及び予算案打合せ(事務所)

<11月>

- 2日 第11回執行部定例会議(事務所)
- 5日 会計監査(事務所)
- 20日 諮問委員会(事務所)
- 24日 体育委員会(事務所)
- 27日 第2回理事会(都ホテル)

<12月>

- 3日 第9回ゴルフコンペ(コマC.C.)
- 7日 第12回執行部定例会議(事務所)
- 28日 終務

<1月>

- 5日 始務
- 11日 第13回執行部定例会議(事務所)
- 16日 総会・新年会・成人式(都ホテル)

<2月>

- 2日 済州道大学趙文富総長歓迎会(都ホテル)
- 4日 厚生委員会(結婚情報センター移転問題)
- 9日 第14回執行部定例会議(事務所)

<3月>

- 1日 第15回執行部定例会議(事務所)
- 12日 第1回理事会(都ホテル)

<4月>

- 5日 第16回執行部定例会議(事務所)
- 27日 第10回ゴルフコンペ(北六甲)

<5月>

- 10日 第17回執行部定例会議(事務所)
- 23日 済州道体育祭典参加
- 29日 韓国全国少年体育祭典参加

<6月>

- 7日 第18回執行部定例会議(事務所)
- 13日 済州国際市民マラソン(済州道)
- 18日 企画委員会(事務所)
- 25日 組織・事業委員会(都ホテル)

支援の要望事項が提出された。
〔第一〇回執行部定例会議〕
第一〇回執行部定例会議が一月二日、関済協事務所で開催され、納涼会(事業部)、済州国体、敬老会、故郷訪問団等の報告が行われた。また①第九回ゴルフコンペ(体育部)②第二回理事会兼忘年会③第六回定期総会・新年会・成人式等の案件が協議された。
〔第一一回執行部定例会議〕
第一一回執行部定例会議が一月二日に関済協事務所で開催され、九九年度事業計画および予算案等が協議された。
〔第二一回執行部定例会議〕
第二一回執行部定例会議が一月二日に関済協事務所で開催され、九九年度事業計画等が協議された。

◇ . . . ◇
執行部記念撮影
◇ . . . ◇



定期総会開催に関する事項等を協議した。
〔第二三回執行部定例会議〕
第二三回執行部定例会議が一月一日に関済協事務所で開催され、定期総会の進行に関して協議した。
〔第一四回執行部定例会議〕
第一四回執行部定例会議が二月九日に関済協事務所で開催され、①第一回理事会(総務部)②第一〇回ゴルフ会(体育部)③執行部ゴルフコンペ④結婚相談所移転(厚生部)⑤理事推薦⑥九九年度事業計画等の案件が協議された。
〔第一五回執行部定例会議〕
第一五回執行部定例会議が三月一日に関済協事務所で開催され、①定期総会開催に関する事項等を協議した。
第一回理事会②ゴルフコンペ日時変更③青年会事務処理等の案件が協議され、また結婚相談センターを金容海所長の自宅に移転することが報告された。
〔第一六回執行部定例会議〕
第一六回執行部定例会議が四月五日に関済協事務所で開催され、①第一〇回ゴルフコンペ(体育部)②高基秀相談役・KBS海外同胞賞受賞祝賀会③済州市長来訪(渉外部)④青年会会費等の案件が協議された。また、コンベンションセンターの経過報告が行われた。





濟州道で初の国体

康忠男名誉会長を引率団長に
関西から選手団77名が参加

第七九回全国体育大会が九年九月二十五日〜十月一日(七日間)、濟州総合競技場を主会場に濟州道一円で開催された。同大会は「八八ソウルオリンピック一〇周年」にあたる開催で、「一〇〇万内外道民が共にする和合体育祭典」と位置づけられ、「青い濟州、輝く国体、偉大な韓国」をスローガンに七日間の熱戦を終えた。九九年は仁川で開催される。同国体には在日同胞選手団の引率団長として康忠男名誉会長、引率副団長として梁斗京会長、金炳鍾・洪正雄・洪佳佑・朴茂範・李純安・金永柱・

康実(以上副会長)、邵卿司理が選任されて、参加した。在日同胞選手団の成績は次の通り。

国体派遣選手団関西地区結団式(関西地区七十七人)が一月二〇日に大阪韓国人会館で開かれ、在日同胞選手団は、海外同胞種目四種目、国内種目八種目、体験参加三種目などに出場することが明かにされ、同時に、康忠男・引率団長は「水泳と柔道で二、三個の金メダルが期待されていますが、所期の目的を納めることができるよう皆様のご協力をお願いします」と語った。

在日同胞選手団百六人は一月二四日に濟州道入りし、濟州パレスホテルで「在日同胞選手団結団式および激励会」が開かれた。挨拶に立った梁斗京・引率団長代行は「これまで一貫した訓練で技量を鍛えただけに相応の成果を期待している。母国との絆を深める場であり、選手団のうち半数が濟州出身なのでホームチームのような雰囲気の中で競技に挑んで欲しい」と激励した。

在日同胞選手団の成績は、金メダル三、銀メダル四、銅メダル三を獲得し、海外同胞部問では在米同胞選手団を押え

《金メダル》◇サッカー一般男子部 ◇ゴルフ一般男子部 団体(李達夫、安武弘、安秉旭、金仙吉) ◇ボウリング一般男子個人(朴俊雨) 《銀メダル》◇ゴルフ一般男子部個人戦(李達夫) ◇テニス一般男子部個人戦(姜玄哲・崔善孝・河文洙)

◇ボウリング一般男子部個人戦(文博一) 《銅メダル》◇ゴルフ一般男子部個人戦(金仙吉) ◇ボウリング一般女子部個人戦(鄭鍊子) ◇水泳二種目(李秀範)

一方、主催の濟州道は成就賞、模範選手団賞に輝き、柔道と重量挙げ等の活躍によって、昨年の十五位から十四位に成績を上げた。なお、優勝は京畿道で、ソウルを振り切った大会三連覇の偉業達成した。

漢拏文化祭参加

一月二二日に開催された第三七回漢拏文化祭に、関西協を代表して洪鍾淳顧問と洪正雄副会長が参加し、誠金二〇〇万ウォンを伝達した。

8月・・・夏季学校

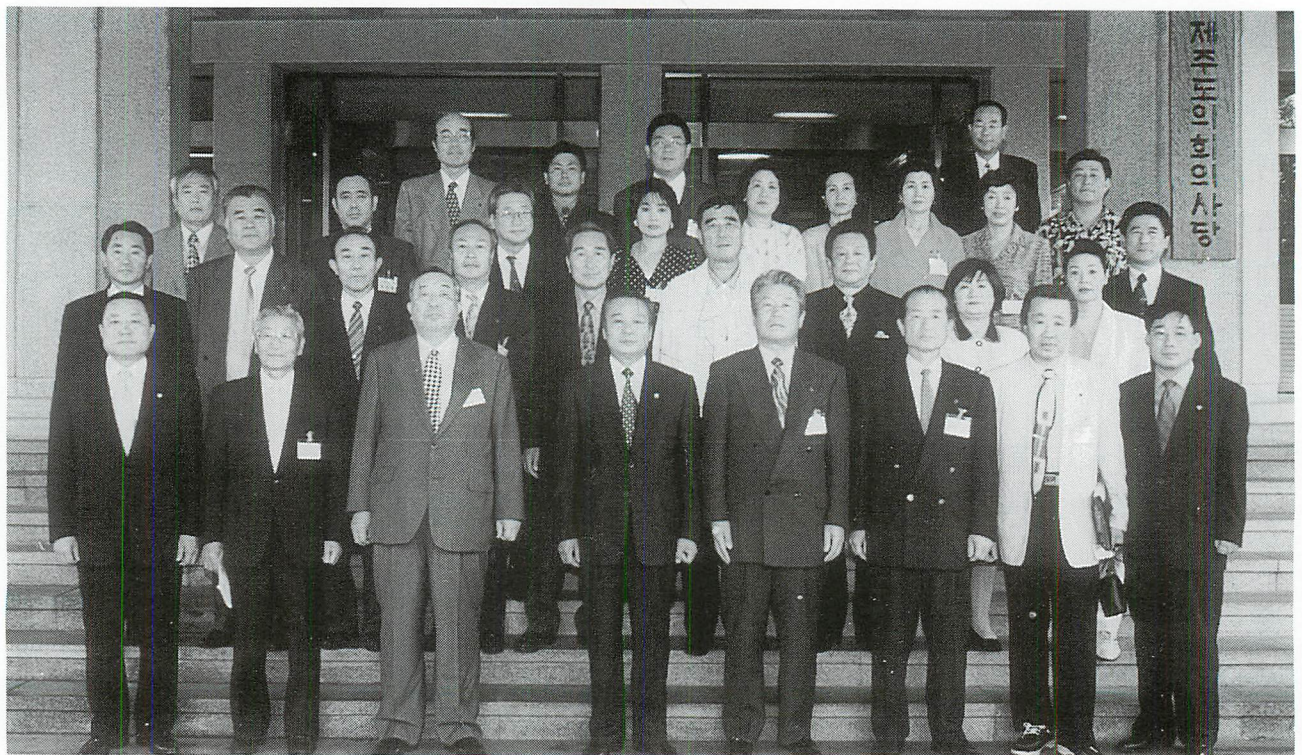


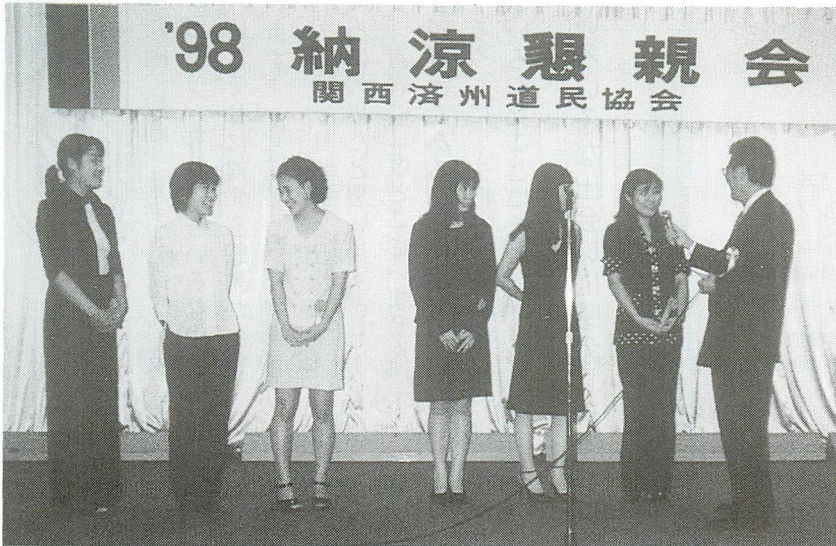
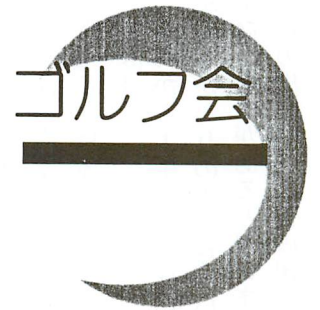
在日二・三世の中学、高校、大学生を対象とする九年度夏季学校が八月二～七日（五泊六日）の日程で濟州道地方公務員教育院（濟州市我羅一洞）で開かれる。大阪からは十名ほどが参加する予定で、郷土の学生らと交流する。参加費は三万円、他の費用は本協会と濟州道教育院が負担する。

夏季学校は、在日二・三世たちに郷土愛の重要性を教育し、祖国の文化と歴史を理解することに主眼が置かれ、また、ウリマル教育と生活教育を通じて、濟州道の現況を理解させるプログラムが組まれている。教育プログラムの概要は次の通り。

- 〔第1日〕 濟州国際空港到着、オリエンテーション
- 〔第2日〕 忠魂碑参拝、入港式（公務員教育院）、記念撮影、生活韓国語（会話・歌）
- 〔第3日〕 現場学習、市内観光・シヨッピング
- 〔第4日〕 現場学習、臨海訓練
- 〔第5日〕 現場学習、キャンプファイヤー
- 〔第6日〕 教育感想発表会、修了式、自由時間

..... 濟州道議會を礼訪





第9回ゴルフ会

第九回ゴルフコンペが一九八八年二月三日、コマカントリークラブで一二二名(うち女性二七名)が集い、和気藹々と熱戦を繰り広げた。その結果、男性の部は野山博和氏が優勝し、女性の部では、大島君子さんが優勝した。

第10回ゴルフ会

第一〇回ゴルフコンペが一九九九年四月二七日、北六甲カントリークラブで一〇六名(男性七八名、女性二八名)が集い、熱戦を繰り広げた。その結果、池田幸基氏が優勝し、準優勝には徳山正雄氏、三位には金城清文氏が輝いた。

太閤園で納涼会
家族ぐるみで楽しむ

関西協事業部が主管する第一回納涼会が八月二九日、大阪市都島区の太閤園で開催され、家族ぐるみで参加して親睦を深め、楽しい一日を過ごした。

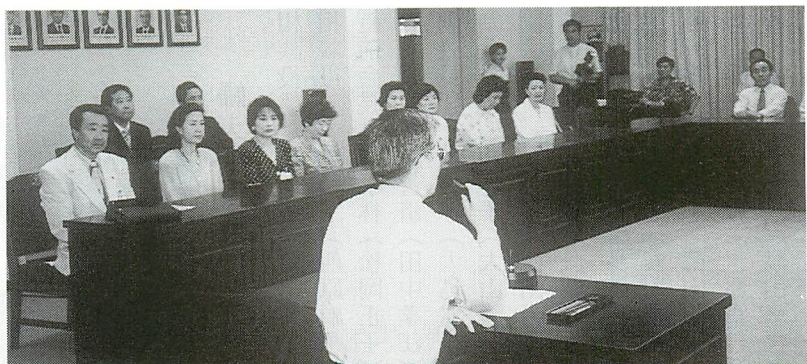
女性の部では田中孝江さんが優勝し、二位は河東花枝さん、三位は利川えい子さんが獲得した。

濟州道出身者が
懐かしの故郷へ

生活に困窮する六十五歳以上を対象とする「第二回在日同胞故郷訪問団」が一九九八年九月十三日から十八日までの間、関西地域(十三日、十七日)、東京地域(十四日、十八日)、仙台地域(十三日、十七日)の日程で、濟州出身四十五人(関西二十三、東京十七、仙台五)が禹瑾敏濟州道知事の招待で故郷を訪問した。

これは、濟州道庁は在日同胞福祉施策の一環として昨年解放直後、何も無い所から今日の濟州道があるのは在日同胞のおかげとする「恩返し」事業の一つと位置づけられている。一行は墓参りや道内観光を楽しみ、故郷の熱いもてなしの数々に感激した。なお、関西協からは金永柱厚生副会長らが引率団の一員として参加した。

濟州道施政の
説明を受ける



敬老の日に
記念品送付

一九九八年九月一五日の敬老の日に、関西協は例年どおり、七七歳以上の敬老該当者二七名に人參茶や竹製の枕などの記念品を送付し、贈呈した。

婦人会だより



関済協・婦人会
会長 金善済

(田中孝江)

「あけいさ」

「グッドイヴイニング」レ
ディアンドジェントルマン、
ウエルカム トウ 若人の集
い」ー本日は台風一〇号の影
響を心配しましたが、ヤング
のパワーのおかげで天気もよ
くなりました。本当にラッ
キーだと思えます。本日ここ
に、かくも盛大に「若人の集
い」を、関済協・婦人会が企画
できたことは本当に光栄でこ
ざいます。

関済協婦人会 行事日誌

- 1998年
- 6月25日(木) 第2回定期総会(都ホテル)
 - 7月8日(水) 執行部初顔合わせ(都ホテル/ラ・メール)
 - 7月30日(木) 執行部ゴルフコンペ(関西空港ゴルフクラブ)
 - 8月29日(土) 関済協納涼会参加(太閤園)
 - 9月11日(金) 役員会※ゴルフコンペ打ち合せ(関済協事務所)
 - 9月18日(金) 第1回ゴルフコンペ(コマc.c.)
 - 9月27日(日) 婦人会大阪本部50周年記念式典参加
(リーガロイヤルホテル)
 - 10月7日(水) 役員会※「若人の集い」打ち合せ
(関済協事務所)
 - 10月18日(日) 「若人の集い」(都ホテル)
 - 10月30日(金) 執行部役員会※「若人の集い」反省会
(ボンティベッキョ)
 - 11月13日(金) 役員会※懇親旅行打ち合せ(関済協事務所)
 - 11月17日(火)~18(水) 一泊懇親旅行(信州/屋神温泉)
 - 12月1日(火) 執行部忘年ゴルフコンペ(コマc.c.)
懇親旅行反省会(モンニジョ)
 - 12月3日(木) 関済協ゴルフコンペ参加(コマc.c.)
 - 12月12日(土) 婦人会大阪本部忘年会参加
(リーガロイヤルホテル)
- 1999年
- 1月16日(土) 関済協総会・新年会参加(都ホテル)
 - 2月23日(火) 執行部情報交換会※一口スピーチ(和光庵)
 - 3月9日(火)~11日(木) 執行部釜山旅行
(海雲台グランドホテル)
 - 4月27日(火) 関済協ゴルフコンペ参加(北六甲c.c.)
 - 5月11日(火) 執行部情報交換会(リーガロイヤルホテル)
 - 5月28日(金) 執行部ゴルフコンペ(コマc.c.)
 - 6月7日(月) 役員会※3周年懇親会打ち合せ(関済協事務所)
 - 6月22日(火) 婦人会設立3周年懇親会(モンニジョ)

絵画、観劇、ミュージカル、ス
ポーツ、等々いろいろな出会
いとそれに対する感激があり
ます。また皆さまの一生の
パートナーを選ぶ出会いも本
当に大事だと思います。
青春は二度とございません。
親御さんあるいは保護者がい
るうちに、失敗をおそれずに
いろいろなことにチャレンジし
てくださいます。

てください。そのチャレンジ
は若い時にしかできません。
今日の吉日に、たくさんの
カブブルが誕生することを期
待しております。そのご褒美
として都ホテルのディナーチ
ケットを用意しております。

関済協・婦人は九月一八
日、コマカントリークラブで
懇親ゴルフコンペを開催した。
三六名が参加し、東コース、西
コースでプレイを楽しみ、大
島君子さんが優勝した。また
このゴルフコンペに直前会長
の松岡正子さん、会長の田中
孝江さん、そして関済協会長
の梁斗京さんがそれぞれ金一
封を賛助した。

婦人会が
ゴルフ会



婦人会役員

- | | |
|------|---------------|
| 相談役 | 高 菊 子 (和田菊子) |
| 相談役 | 姜 順 子 (西原順子) |
| 直前会長 | 申 永 林 (松岡正子) |
| 会 長 | 金 善 済 (田中孝江) |
| 副会長 | 金 君 子 (大島君子) |
| 副会長 | 朴 勝 子 (大山勝子) |
| 副会長 | 金 芳 子 (徳山芳子) |
| 副会長 | 金 芳 子 (徳山芳子) |
| 副会長 | 高 好 子 (呉城好子) |
| 監査役 | 李 寿 子 (梁本寿子) |
| 幹 事 | 李 寿 子 (梁本寿子) |
| 幹 事 | 邊 寿 子 (安田寿子) |
| 幹 事 | 文 義 子 (徳山義子) |
| 幹 事 | 李 富 枝 (水原富枝) |
| 幹 事 | 金 幸 代 (高山幸代) |
| 幹 事 | 姜 陽 子 (高 陽 子) |
| 幹 事 | 丁 永 順 (良原順子) |
| 幹 事 | 金 年 子 (箕山年子) |



第2回「若人の集い」
婦人会が主催



関済協・婦人会は一九九八年十月一八日、大阪市天王寺区の都ホテルで、「第二回若人の集い」を主催した。この集いには関西地区在住の男性四五名、女性四五名の子女が参加した。

金君子(大島君子)副会長の司会のもと、挨拶に立った金善濟(田中孝江)会長は、「多くの若い人たちの出合いの場を、関済協・婦人会の企画ができたことは本当に光栄でございます。人生にはいろんな出合いがあると思いますが、皆さまの一生のパートナーを選ぶ出会いは本当に大事です」と述べた。

申永林(松岡正子)直前会長の先唱で乾杯した後、司会者の誘導のもとに八テーブルに分かれた女性に、八組の男性が順々にめぐってフィードバックの合った意中の人をカード



に告白(記入)して探すというスタイルで進行された。結果は一〇組のカップルが誕生し、祝福の拍手のなか、都ホテルのディナー券(二万円相当)がプレゼントされた。

また、この「若人の集い」には関済協・結婚情報センター(所長 金谷海顧問)が全面的に支援し、結婚までのゴールインに努力することになっている。

天竜舟下いを楽しむ婦人会懇親旅行



青年会だより



私たちは、日本・韓国・朝鮮の架け橋的存在である



れるように、青年会を通じて人格を磨く場にしていきたいと思ひます。



青年会が第6回定期総会を開く

今期会長に選出されました康義松です。

四団体が統合され、六期目を迎えますが、私は、旧青年会のことは、あまり知らない世代になってきました。

今、関西済州道民協会青年会は、在日の一多、多い関西、大阪を中心とした同じ故郷を済州道に持つ子孫の集まりの親睦会であり、関西済州道民協会を親団体とし、親睦の輪を広げていかなければなりません。

韓国・朝鮮人の血を忘れず、日本において共存共栄して行けるように頑張るために、自分たちの民族意識を再確認し、国際社会の架け橋的存在にな

- 事業委員長 邊京来
- 広報委員長 金成奎
- 青友会キャプテン 姜典正

〔一九九九年度活動方針〕

韓国、日本においても、今までに経験したことのない不景気の中、青年会の在り方を再確認し、事業活動を通じて友情友愛、相互尊重のもとに親交を深め、未来を見つめた意義ある生活、地域社会への貢献を本年度の青年会の活動方針とします。

- 一、組織の充実、整備
- 二、在日同胞、他団体との交流
- 三、母国文化の勉強会の開催
- 四、講演会の実施



- 五、福祉事業
- 六、新人会員の育成、拡充



〔今年度新人会員〕
今期は、新入会員が入会した。

- 韓京林(上村京林)
- 朴承天(江川承天)
- 呉裕信(大山信)
- 申哲(川上哲)
- 呉斉哲(呉本斉哲)
- 高武邦(高武邦)
- 李清(徳原清)
- 張昭弘(渡辺昭弘)

右より呉斉哲(呉本斉哲)、高武邦、李清(徳原清)、呉祐信(大山信)、申哲(川上哲)、韓京林(上村京林)
▼欠席二名、朴承天(江川承天)、張昭弘(渡辺昭弘)

一九九九年度 定期幹事会 日程

- 第二回定期幹事会 二月六日(土) 午後七時
- 第三回定期幹事会 三月六日(土) 午後七時
- 第四回定期幹事会 四月三日(土) 午後七時
- 第五回定期幹事会 五月八日(土) 午後七時
- 第六回定期幹事会 六月五日(土) 午後七時
- 第七回定期幹事会 七月三日(土) 午後七時
- 第八回定期幹事会 八月七日(土) 午後七時
- 第九回定期幹事会 九月四日(土) 午後七時
- 第十回定期幹事会 十月二日(土) 午後七時
- 第十一回定期幹事会 十一月六日(土) 午後七時
- 第十二回定期幹事会 十二月四日(土) 午後七時

※定期幹事会開催場所は、関済協ビル三階会議室。



青年会主催のボウリング大会が三月二十一日(日)東大阪ロードボウルで開催され、八十名が参加、楽しい一時を過ごした。表彰式、食事は、生野区巽北の酒連坊で行なわれた。

3月度月例
ボウリング
大会



メンバー六名を招き、和やかにプレーを楽しんだ。優勝は、青友会キャプテンの姜典正氏に輝いた。懇親会は、大阪市西区のコリアンステーキ・チェジュ(済州)で行われた。

6月度月例
事業講演会

六月五日、関済協三階会議室で、在日本大韓国民団大阪府地方本部国際部長の金炫秀氏を講師として招き、「地方参政権の大きいなる意義」をテーマに講演会を行った。

会員一同は熱心に耳を傾けた。講演終了後、講師の金炫秀氏を囲み、地方参政権について話し合った。

青友会が
ゴルフコンペ

五月二十三日(日)北六甲カントリークラブ東コースで、青友会ゴルフコンペを行った。このゴルフコンペには交流のある東大阪南朝鮮青商会のメ

【講師プロフィール】

一九八五年外国人登録証明書大量切替時に指紋捺捺撤廃運動を推進。一九九〇代、外国人の障害者、高齢者への年金給付を大阪府内の市町村に対して陳情を行い、現在定住外国人の地方参政権運動では、在日外国人社会での第一人者として先陣をきって活躍中である。

今後の事業日程

八月度月例事業野遊会
期日 八月二十九日(日)
集合場所 関済協ビル前
集合時間 午前八時
場所 忍術村(ブルームの丘
(滋賀県甲賀郡)

参加費 大人 二〇〇〇円
小人 一〇〇〇円

大勢の参加をお待ちします。

担当 厚生部

九月度OAFスポーツ大会
日時 九月五日(日)九時

集合

場所 白頭学院運動場体育館
種目 ソフトボール・ソフト

バレー

OAF参加団体及び他団体
会員との親睦交流
担当 会長団

十月度月例事業母国訪問
日時 十月二十二日(金)

二泊三日を予定しております。

濟州道庁・濟州大学(株)濟民日報等の表敬訪問、先祖の墓参り。ぜひ公式事業として母国訪問に参加下さい。

韓国語教室の
お知らせ

三月二十六日(金)より韓国語教室を行っております。

受講料 無料

日時 第二・第三金曜日午後七時半より九時まで

場所 関済協三階会議室

講師 張 智恵

(チャン チへ)

【講師プロフィール】

大阪市出身。在日韓国人三世。一〇代の頃に韓国舞踊と出会う。二〇代になって本格的に舞踊を始め、一九八九年、伝統舞踊を習うため単身韓国にわたり、韓国人間文化財「李梅芳(イメバン)門下に入る。韓国で国立劇場やその他公演に出演。一九九八年、重要無形文化財第九七号「サルブリ舞」履修者(日本で言う「名取り」にあたる)となる。現在、日本にて韓国舞踊の指導、公演活動を行っている。

◇張智恵韓国舞踊教室主宰(西宮、神戸、大阪市内)◇「西宮チャンゴの会」指導◇韓国舞踊ティタイム代表◇民団八尾支部韓国語教室講師◇聖公会韓国語教室講師◇西宮若竹韓国語教室教師◇その他、保育所、高校などへ韓国文化、韓国語指導。

在日同胞子女の結婚について 日本人との結婚が日増しに増える趨勢に憂慮 このままでは同胞社会の崩壊につながる・・・

関西濟州道民協会
同胞結婚総合情報センター
所長 金容海
(関濟協顧問)

同胞結婚総合情報センターのこの一年間の活動において、見合いは十数組にのぼるもの、成婚は一組もない。同族の結婚よりも、日本人との結婚が日増しに増えている在日同胞の結婚に関して、複雑な気持ちにならざるを得ない。勿論、社会環境の影響もあるだろうが、この趨勢で進むと、在日同胞社会の崩壊はもう遠い将来ではないように思われる。その原因はさまざま考えられるが、幾つかの問題点について以下の通りまとめてみた。

ひとくちに在日同胞六四万というが、そのうちいわゆる一世は今では一割に満たず、九割は二・三・四世によって占められている。すでに五世の出生も珍しい話ではなくなった。解放後、五四年という年月があらためて痛感される。一世と二・三・四世との相違点はいろいろ挙げる事ができるであろうが、端的にいつてそれは民族の心を体験として持っているものと、持つていないものとの差といつてもよいのではあるまいか。いいかえれば祖国をふるさとという言葉と重ね合わせてとらえることのできるものと、できないものというようにも表現できる。

「三ツ子の魂百まで」という言葉があるが、生活の根本的な柱となるべき発想は、少年期から青年期を迎える段階において身につけやすいものである。とすればその時期をどのように過ごしてきたかということとは各々の人間にとつて、人生の方向を決める上で最も大切な目安とみることができよう。一世と二・三・四世との差異とは、この貴重な時期を祖国で過ごしたか、日本で過ごしたかという差異なのであって、その違いの大きさは表現しきれないほどである。もちろんこの落差はそれ自体において正しいとか誤っているとか、あるいは良いとか悪いとかいふべき性質のものではなく、ただ厳然とある事実として受けとめるしかないであろう。

大きな障壁は国籍、同姓不婚、地方意識
すなわち、ある意味ではわれわれ一世と二・三・四世の間にはかなり救い難い程の断絶があるといふことを、一つの事実として前提においた上で、将来二・三・四世以降の世代のみによって構成される同胞社会というものを考えなくてはならない。三・四世の結婚を論ずることは即ち、三・四世たちがどのように歩んでいこうとするのかを論ずることに通じるからである。

いま仮に一つの同胞家庭を想定してみよう。直感的にイメージを描けば、六〇代後半から七〇代の祖父母、四〇代後半から五〇代の父母、三〇歳前後を筆頭に数人の兄弟がいて、末っ子は中学生程度という構成が典型として浮かんでくる。この典型的な家族構成からすぐ察しがつくことは、三世がいわゆる結婚の適齢期だということである。同胞社会において、ここ数年ほど結婚への関心が高まったのはかつてなかったのではないかとと思われる。解放後、さまざまな事情で故郷を離れ、あるいは青雲の志をいだいて日本にきた一世たちも今では孫・曾孫を抱き、曾祖母・ハラボジ・ハルモニと呼ばれるにふさわしい年齢になった。今では息子や娘・孫を結婚させることが何よりの楽しみであると同時に頭痛のタネでもある。

ところがさて、同胞社会を振り返ってみれば、想像以上の困難や障壁が若い男女の前に立ちはだかっているように思われる。大雑把な言い方をすれば、一つは国籍の問題、二つには同姓不婚の問題、三つめは地方意識の問題が考えられる。この外にも壁となるものは少なくないが、とりあえず三つを中心に考えていきたい。

悲しいことながら解放後五〇数年を経た今日、われわれの祖国は未だに南北に分断された状態が続いており、その影響は在日同胞社会にも当然のこととして及んでいる。在日同胞六四万は属している陣営によって大きく二つに色分けされる。すなわち南を支持する

か、北を支持するかということである。これに基づく対立の意識が結婚という問題にも端的にあらわれることが多い。親が民団である場合、必ず結婚相手も民団に属していなければならないとする考え方がそれである。結婚する以上、基本的な考え方が同じであるに越したことはないから、民団という同じ陣営内で結婚相手を求めようとすることは、ごく自然な成り行きであるといえよう。

民団に属することは大きな共通項だが
それぞれ異なった家庭環境で育った男女が協力して一つの家庭を築いていこうとする行為は、いわば共通項をみつけ、育てていこうとするものである。その意味で互いが民団に属していることは、非常に大きな共通項を前提としてもつことであり、結婚生活を支えて行く柱ともすることができよう。

しかしここで留意するべきことは、若い青年男女にとつて、民団であるかどうかという意識が自分自身の問題として、どれほどに切実なものか、という疑問である。青年男女にとつて、自分が民団に属しているということとどの程度自覚しているかという問いかけに、一世であるわれわれ自身、どれほど賛成票を投じることができようか。甚だ心もとないのが実情ではあるまいか。この問

題はわれわれ民族教育の成果がいかにどのものであるかを、言い表している。近頃の青年男女をみれば、民団かどうかを問うよりも前に、日本人と結婚しようとする傾向さえひんぱんに見られるのである。親がいくら同じ陣営の人を相手にと言っても、子供の選んだ相手が日本人であつてみれば何をかわいんや、ではなからうか。

日本名使用が多ければ「本貴」にも関心が薄い

近頃は結婚についてもかなり本人の意思を重視するようになった。日本人と結婚することも「本人同士が互いに結婚したいと思つているのだから仕方がない」というように、必ずしも積極的でないにせよ、認める傾向が見うけられる。場合によっては親がいくら反対しても、子供ができたという既成事実から、否応なしに認めざるを得ないということもある。けれどもこれをみて「近頃の若い者は・・・」といわんばかりに嘆くのは少し早計というものである。嘆くのはよいが、その対象は「若い者」ではなく、民族教育を十分に施さず、民族的自覚のない青年に育てた「親」自身なのである。われわれ一世が民族教育を真剣に考えず、口先だけのものとして終わらせるならば、好むと好まざるとに拘わらず、今後日本人との結婚がますます増えるのは避けられないであろう。

青年男女が自分の意思で、同じ民族として結婚しようとするのであれば、民団かどうかという踏絵は必ずしも絶対的条件にならないのではあるまいか。固有の歴史と文化伝統をもつ同じ民族間で結婚しようとするこそ二人のためには貴重なことと言わねばならない。

次に同じ民族同士の結婚であっても同姓不婚という障壁がある。本人同士がいかに恋愛をし、信じ合おうとも、姓(本貴)が同じである限り、その結婚は許されないとするのが普通である。だから男女交際の最初の関心事は相手の姓(本貴)を知ることにある。いざ結婚という段になって、同姓だからいけないというのは青年たちにとつて納得できるものではない。まして日常生活では日本名を使うことの方が多いのであるから、姓氏に対する関心が薄いのも無理からぬことなのである。

にも拘わらず同姓不婚を強要する必然性はどこにあるのだろうか。これも一つの伝統だといつてしまえばそれまでであるが、しかしこれは封建時代の遺習以外の何物でもない。すべて時代は移り、生活様式は変わったし、同時に生活への意識・考え方も変わった。それなのに何故に今なお封建時代の遺習にしがみつかねばならないのか。もちろん近親婚を避けるという面からは合理的なことに違いないが、三百年、四百年も前から「族譜」(系図)をひもといて、姓氏や家柄を云々するのは少し時代錯誤的といえなくもない。

韓国の民法によれば、十二親等以上の結婚は認められているのであるから、これを一つの基準として考え方を転換させてもよいのではないか。ましてわれわれの姓氏は金・李・朴を三大姓とよび、これに鄭・崔を加えて五大姓というように非常に少ないのが特徴である。それゆえ過度に神経質になることは、結婚の門を狭くすることにしかならないのである。

同姓不婚はいわれなき封建時代の遺物である

また本貴というものが姓氏の上についている。そもその先祖がどの地の出身かということである。姓氏が同じであつても本貴が異れば、その結婚は認められる。光山金氏と安東金氏ならば差し支えないという具合である。しかし今の若い人々にとつて何百年も前の先祖の出身地がどこかというよくなことは、ほとんど関心の外である。しかも同じ本貴・姓であつても、様々な分派が生まれており、分派の発生からだけみても、十何代にもなっていることを考えれば、同姓不婚がいかに形式にとられた無意味なものであるかわかる。

それにもまして注意すべきことは、この血縁の尊重が父親の姓に限定されていることである。それほどまでに近親婚を忌むのであれば、母親の姓は何故問題にしないのか。われわれが後生大事にかかっている同姓不婚の伝統とは、実に儒教思想に根ざしたいわれなき因習にすぎないものであり、封建時代の遺物である。それが証拠に最大の姓氏といわれる金海金氏は同姓間の結婚が認められている。それはもしこれを守れば結婚相手の範囲が非常に限られる結果になるからである。だからといって同姓間の結婚を奨励するわけではさらさないが、少くとも判断の基準を再考する余地はあるように思われる。

同姓不婚と並んで結婚の壁となつているのは出身地である。在日同胞六四万のうち、本籍地を故郷として認識できるのはほとんど一世のみであつて二・三・四世には故郷というイメージをもちにくいのが通例であろう。にもかかわらず現実には、結婚という時には必ず本籍地も問うのである。慶尚道と全羅道は結婚したがらないというのが通説である。果たしてそうだろうか。

濟州道の場合には更に極端である。濟州道から陸地をみると「パッキ サラム」といういい方をする。直訳すれば「外の人」というわけである。なるほど島であ

る濟州道から陸地をみれば「外」に違いない。ところが陸地から濟州道を見てどうかといえれば、やはり「パッキ サラム」というのである。これまた「外の人」であることに違いない。しかしこのように本籍地を強調し、対立したところで何の得るところがあるだろうか。これもいわれのない偏見ではないだろうか。

甚だしい場合は一つの山(漢拏山)の北側か南側かであるとか、ある都市の西側であればよく、東側ではいけないとかいう。例え解放前まではそれなりに何らかの興味をもちえたことであつても、すでに時代は変つたのである。二・三・四世には関りえないことで、その行動を束縛するのはやはりいさすぎた行為ではないだろうか。

在日同胞という大きい視野から見よう

むしろ共通の場を在日同胞というところにおいた方がより自然だと思われ。日本でも北海道に行けば本州の人間に対して「内地から来たのですか」というような言い方をする。だからといって北海道の人間が「内地の人」と結婚しないということはないし、親が反対するということもない。狭い地域にこだわる考え方は、昔、交通機関が未だ発達していなかったころに、居住地域を一つの完結した世界とみる見方であつて、これも

濟州道の場合には更に極端である。濟州道から陸地をみると「パッキ サラム」といういい方をする。直訳すれば「外の人」というわけである。なるほど島であ

る濟州道から陸地をみれば「外」に違いない。ところが陸地から濟州道を見てどうかといえれば、やはり「パッキ サラム」というのである。これまた「外の人」であることに違いない。しかしこのように本籍地を強調し、対立したところで何の得るところがあるだろうか。これもいわれのない偏見ではないだろうか。

甚だしい場合は一つの山(漢拏山)の北側か南側かであるとか、ある都市の西側であればよく、東側ではいけないとかいう。例え解放前まではそれなりに何らかの興味をもちえたことであつても、すでに時代は変つたのである。二・三・四世には関りえないことで、その行動を束縛するのはやはりいさすぎた行為ではないだろうか。

やはり封建時代の発想法というべきである。

この他にも結婚の壁は少なくない。例えば四柱とよばれる相性である。生まれた年・月・日・時刻によつて相性がよいとか悪いとかいうのである。このような相性にかほどの信憑性があるのか反省してみることもなくただ信奉するだけでは無知蒙昧のそしりを免かれない。

さてこのような様々な結婚の壁をつきくずす鍵は何であろうか。一言でいえばそれは「在日同胞という大きい視野から見よう」ということである。分断された祖国の南を支持しようが北を支持しようが、あるいは慶尚道出身であろうが全羅道・済州道出身であろうが、はたまたいかなる姓氏であろうとも、在日同胞という立場からみれば最大公約数をつかみとることができはるはずである。在日同胞として考えれば互いに理解し、協力する道が開けてくるはずである。

自分から進んで民族的
気概を身につける努力を

われわれにとつて最も大きな関心事・課題は何といつても祖国統一である。祖国が統一してこそ本当の意味でわれわれに曙がおとずれるのである。いかにわれわれが独立国家の国民であるとして胸をはってみても、祖国が統一しない

限り、完全な意味での独立国家の国民とはいえない。

われわれは在日同胞として祖国統一に寄与する道を探してこそ、本当の自分の立場を確立することができるのである。そして在日同胞が果たすべき統一への寄与とは、在日同胞六四万自身が大同団結することである。青年男女の結婚にまつわる様々な問題はすべてこの一点から解きほぐしていかねばならないし、また解きほぐして

いけるものなどである。

在日同胞の将来をになうのは、いま度結婚にさしかかった青年にほかならない。その若い人々が旧い慣習や封建的な因習にしほられて脱皮できないとすれば、在日同胞の将来そのものがあやうといわねばならない。いまこそ青年は新進の気鋭をもって旧習を打破し、新しい生活規範を確立しなければならぬ。そのためには青年一人ひとりが自分の境遇・立場・

進むべき方向を考えなおすことが必要である。

いざ結婚という段になって、親の民族教育が不徹底だったことをうらむより、自分から進んで民族的気概を身につけるよう努力しなければならぬ。よく男女交際の場がないといわれるが、それは親がつくって与えるような性質のものではない。自らつくりだせばよいのである。いまや三・四世が親に対してうらむ時代は過ぎ去っ

た。うらみは甘えの裏返しにすぎない。結婚の意思決定は最終的には自分自身があるのである。とすればすべての生活の場で、もつと積極的に自己を主張すべきではないか。青年たちが自身の行動に対して、在日同胞という大きな視野をもち、民族的な立場に立つて力強く進むならば、結婚の障壁もおのずから取り除かれるであろう。

結婚情報センター

移転のご案内

1998年7月、関済協の主要事業として関済協ビル5階に結婚情報センターを開設し、毎週火曜日、木曜日の週2回の相談に応じ、相応の成果を上げてまいりましたが、毎日の相談に応じられるようにとの配慮から、事務所を金容海所長の自宅に移転しました。

本センターは在日済州道民だけでなく、在日同胞全体の結婚問題に寄与するセンターです。一人でも多くの同胞子女たちが幸せな結婚ができるようにと努めておりますので、ご活用のほどよろしくお願ひ申しあげます。

※相談・紹介料は無料です

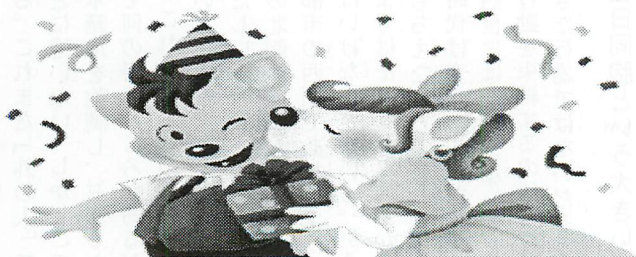
住 所 : 大阪市生野区勝山北5-18-14

TEL・FAX : 06-6716-0456

1999年7月吉日

関西済州道民協会 会長 梁 斗 京

結婚情報センター 所長 金 容 海



私のモスクワ体験記

青春の夢が

叶えられ

こんなに嬉しい
ことはない

寄稿

私は昨年(一九九八年)の五月三日から六月一二日まで丁度一ヶ月間モスクワに語学短期留学に行ってきた。若い時からの積年の夢であったことを叶えられて、こんなに嬉しいことはない。

そもそも、私がモスクワ行きを希望していたのは旧い昔の話になるが、四〇年以上も前の神戸外大でロシア語を専攻していた時からである。当時、韓国は猛烈な反共国家であり、当然、私達在日本人も韓国としてそれを守っていた。共産国家であるソ連に行けないのは勿論であった。一九六三年に私がテニスの監督として韓国のテニス選手権大会に参加するため、臨時バスポートで行ってきた後、領事館から呼び出しを受けた事があった。それは、私が何故口

シア語を専攻したのかを聞かれたのである。私は高校時代に国木田独歩が好きで、彼がロシア文学の影響を非常に受けていて、私もそのロシア文学に近づきたかったから、ロシア語を専攻したと答えたことがあった。ロシア語を専攻しただけで思想を問われたのであった。そんな時代でもあったのである。今にして思えばどういふ事もないことではあるが、私も若かった。韓国が私を必要としないのであれば、私は帰化しても良いと啖呵を切った事があった。本音を言えば、帰化する気は毛頭無いのだが、死ぬまでに韓国籍のままで行かれないければ、帰化してでも行きたいと言う気持ちはあった。幸か不幸か、否、幸いにも韓国籍でもロシアに行ける時代になった。

行くのは、自分の気持ちと、時間の問題だけである。一昨年末(一九九七年)で四〇年間関わってきた仕事を廃業し、時間は充分ある。気持ちの問題の方は家内が積極的に後押ししてくれたのでふんざりがついた。

行くからには観光でなく勉強で行きたいと思ったから、短期ではあるが語学留学の道を選んだ。いろいろな旅行社に当たって、結局モスクワの大学の一ヶ月留学でホームステイのコースを選んだ。費用的にはともかく、朝から晩までロシア語漬けになろうと思ったのだ。只、航空便には拘(こたわ)った。折からのME態勢である

ので、大韓航空(KM)を利用した。いよいよモスクワに出发する前日には流石に興奮して眠れなかった。四〇年間の思いを込めてKZM機に乗り込んだ。ソウル経由であるが、ソウルからの乗客の殆どが韓国人で、三〇%ぐらいがロシア人である。それにも驚いた。日本語は全く聞かえてこない。隣に座った人に聞いたら、自分は韓国人であるが、年に二、三回はモスクワに行くがロシア語は話せないという。ビジネス社会では殆ど英語で商談すると言う。

モスクワに着いた。出迎えの人は若い女性である。ドキマジしてロシア語がでてこない。忘れたの

か、思い出せないのか、あがつている自分に気がついた。とにかく車に乗り込んだ。走り出して市街地に入って吃驚(きつきょう)した。市電やバスの車体に大きくSAMSONIC(三星)、DAEWOO(大宇)と大書した広告があるではないか。韓国がロシアに進出しているのは前から知ってはいたがここまでとは思わなかった。冒頭に書いたように、時代は変わったんだなー、の思いが強くなった。冷戦の時代は「はるか、彼方へ行きにけり」である。平和な時代を満喫しよう。

車はステイ先の家に着いた。家といってもモスクワでは一戸建ての家はなく、日本で言えば公団住



モスクワの中心部トウベルスカヤ「ブリーシュキン広場」にて



「赤の広場」にて



「赤の広場」の「レーニン中央博物館」の前

学ぶ心に年齢はない 会員子女も挑戦して欲しい

宅のようなアパートである。家の周囲は緑が一杯と言うか、林檎の木、白樺の木などに囲まれて環境は素晴らしい。荷物を整理し、夕食を済ませてほっとしたが、外を見るとまだ明るい。時間は九時過ぎだ。やっと暗くなつて来たので、時計を見ると一〇時半である。朝は四時にはもう明るくなっている。私は今回の旅行では基本的に外食をしないでロシアの家庭料理を楽しむつもりで来たので、朝の食事に期待した。ジャガイモと肉の煮たものとスープとパンである。飲み物は日本から持ってきたインスタントコーヒーである。朝から主人とロシア語で会話する訳だが、やはりロシア語が思った以上に出来ない。四〇年間の空白は大きかった。挨拶の言葉は出てくるのだが、テレビを見ながらの日常の言葉は駄目だ。昔の外大時代のロシア語は何だったのか。自己嫌悪に陥りながらため息をついた。

翌日、学校に行った。授業はマンツーマンで、九時半から二時までみっちり絞られる。いきなり中級程度の教科書である。流石に、教科書は判る。ここに本は読めるも会話は出来ないという日本の外国語教育の矛盾があると思った。(これは私の実力不足かもしれない)。この調子で毎日、授業が続き、宿題もめちやくちや多い。家で頑張っても、四、五時間かかる。街の観光どころではない。授業も終わりに近づくと大分理解できるようになって来た。先生も合格点をくれた。評価は五点満点である。嬉しかった。苦勞した甲斐があったというものだ。終了証書を書いた時は涙が出てきた。終了証書を書くのは何年振りだろうか。この年で、と思うと感無量である。自分自身を誉めたいと思う。この一ヶ月を振り返って見ても良く頑張ったと思う。一日一〇時間の勉強なんて受験勉強以来のことだ。恐らく、普通の大学の一年分は勉強しただろうと思う。一ヶ月を振り返りて見ると、不思議にホームシックにもかからなかった。食事にも不満はあったが、許容範囲内ではあった。それだけモスクワが私を惹きつけたのだらう。

土、日曜は学校が休みなので、宿題を済ますと初めて街の観光に出かけた。家からモスクワの中心部までメトロで約三〇分かかる。メトロ(地下鉄)は二ループル(約四五円)で全線均一料金である。(私が日本に帰った後、ループルは下がって、今は当時の四分の一ぐらい)。家からメトロの駅まで歩いて一五分ぐらいである。この間の道が素晴らしい。白樺や林檎の木の間が素晴らしい。白樺や林檎が、新緑したたる中を歩くのは実に爽快である。ロシアの季節は大坂より一ヶ月遅れていると思うと丁度良い。

メトロで街の中心部に行った。地上に出るとトウベルスカヤ大通りと言ってモスクワの目抜き通りである。大きな建物の上を見ると、SAMSUNGやDAEWOOの看板があるではないか。そう言う目で見ると、看板の殆どが韓国、日本のものである。走っている車も韓国車、日本車が多い。赤の広事に向かって歩いて行くうちに周囲は昔、本で見た建物、広場がいっぱいある。赤の広場について来た。ここへ来て初めてモスクワへ来た実感が湧いてきた。夢に見た、あの、赤の広場だ。昔、憧れた、来たくても来れなかった、あの赤の広場だ。大袈裟ではない。涙が出てきた。ここに立っている自分が信じられないぐらいである。ここへ来る為に協力してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいである。クレムリン、レーニン廟、まるで映画かテレビのなかにいるようだ。ここへ来る為にロシア語の勉強をしたと言っても過言ではない。感激の中で写真を撮っているうちにフィルムが無くなった。それ程、夢中だったのだ。

せっかく、ロシアに来たのだからと、サンクト・ペテルブルグ(旧レーニンград)へ行ってきた。ペテルブルグはモスクワに次ぐ大きな都市で、良くモスクワと比較される。街の中心部には、美観を考慮して立てられた一八、一九世紀のパロック、クラシック様式建築が激動の時代を超えて残されている。静かにたたずむ近世の古都は、動乱、革命、戦争、包囲と悲惨な歴史を秘めている。ロマノフ朝の舞台がこの地に多されてからは、近代ロシアの発展を導く首都となった。又、ロシアの歴史を覆した革命発祥の地としても名高い。サンクト・ペテルブルグ、ベトログラード、レーニングラード、そして再びサンクト・ペテルブルグと移り変わった街の名は、それぞれの時代の栄光と名誉を今も保っている。丁度、白夜の時を迎えたペテルブルグは、フィンランドとの国境に近く、ここは西欧文化との接点の都市でもあり、歴代皇帝の権勢を示す建物と美術品にあふれており、中でもエルミタージュ国立美術館は特筆されるべき所であり、ここを見なければ、何処を歩いてきたのかを問われることになりそうだ。良く、ロシアの治安は悪いだろうと言われるが、私の接した人達は、皆、善良であり、友好的であった。夜行列車の中の人達、駅の待合室でビールを飲み交わしながら、二時間以上も話し合った人、すべての人達は皆、親切であり、良い友人でもあった。通常の生活範囲の場所、時間では快適な生活を送れるし、心配する事はなかった。一ヶ月間を振り返って見て、日本語を一度も使っていなかったのに気が付いた。勿論、韓国語をも、である。この一ヶ月は私にとって、新しいロシア学(語)の勉強の新たな出発点になるだろう、又、しなければならぬと思うのである。

紙面の関係で、これ以上書けないが、私が本当に書きたいのは、私のような者でも「留学」出来たということ。挑戦する気持ちがあれば、学ぶ心に年齢は関係ないということ。これを読まれた会員のご子女の参考になれば嬉しいと思います。

(金性玉・関濟協監事)

日韓併合

前夜

韓民族史上初めての異民族支配という屈辱と苦難を経験しなければならなくなった一九一〇年の日韓併合は、ある日突然実現したものではない。その日韓併合はどのようなにして生じたのか。そこに至るまでに、両国の間にはどのような歴史があったのか。その苛酷な歴史を二、三の著書を参考に追って見た。

安東金氏の
勢道政治が
全盛極める

李氏朝鮮王朝は、豊臣秀吉軍の侵入によって甚大な被害を蒙った後も一六二七年に後金（のちの清）の攻撃を受け、さらに一六三六年には清軍に

攻めこまれるなど五十年近く繰り返された戦乱のためにその発展は妨げられたが、一七二五年に即位した第二十一代の王・英祖の時代は、李氏朝鮮王朝の復興期で、文化は大きく発展し、第二十二代の王・正祖の時代へとひき継がれた。この二人の王は、両班支配階級の党争を押えることに苦心した。李氏朝鮮王朝は、国王を中心とした両班官僚による中央集権制度が確立し、法典の

争に代って勢道政治が現われる。勢道政治とは、権力を握った一族が国政をほしいままにする政治である。十九世紀のほぼ全期を通じて、安東金氏などによる勢道政治は国運を左右するほどの勢いであった。その勢道政治は三政、つまり田政、軍政、還穀の紊乱をもたらしていた。田政とは土地の結数にしたがって田税を賦課することで、本来の基準は一結当たり二十斗足らず（収穫の十分の一程度のも）だったが、いろいろな名目の雑税が加えられ、一結当たり百斗にも達していた。軍政とは壮丁から徴収する軍布のことで、名簿を偽造して幼児から徴収する黄口簽丁、死者から徴収する白骨徴布、その徴収が不可能になると一族の者に負担させる族徴、同村の者に負担させる隣徴が公々然とおこなわれた。還穀とは本来は貧しい農民を救済するために、春窮期に官穀を貸し与えて、秋取期に若干の利息穀を加えて返済させるものだが、これが高利貸的な収奪に利用された。このため民乱が各地で勃発したが、その最大のもので、一八

一年の平安道における洪景来の乱と、一八六二年の慶尚道における晋州民乱である。

王族の多く
が都を離れ
貧困の日々

正祖の後継者として、一八〇一年に即位した第二十三代の王・純祖は十一歳であった。在位三十四年の間、彼は口ポットの存在で、第二十一代の王・英祖の妃であった貞純王后金氏の垂簾政治が行われた。垂簾政治とは、女性である権力者が簾の内側から行う政治のことで、この時は貞純王后の生家である安東金氏一族がほとんどすべての要職を占め、勢道宰相という世の悪評をよそに、私利私欲を追求した。純祖が没し、その孫である八歳の少年が第二十四代の王・憲宗になったのは一八三五年であった。この時も安東金氏一門による勢道政治が行われた。

一八四九年、憲宗は世子を残さず没した。安東金氏一門

は、江華島に住む王族を捜し出して都に迎え、第二十五代の王・哲宗とした。権力を握って以来の金氏一族は、常に王族を虐待してきた。王族は高位の官職につく道を断たれ、その多くが都を離れて貧困にさいなまれる日々を送っていた。哲宗の一家も祖父の代から江華島に移り、王族とは名のみはじめな暮らしを続けてきた。哲宗は漁夫の子らと交わりながら教育も受けずに育ち、王位につくまではまともな衣服をつけたこともなかった。

李氏朝鮮王朝は常に学問を尊重したが、このときはろくに文字も読めない青年が王位についたのである。王族の市井人李昱応は王室章典に精通していた。王室章典によれば、哲祖没後の王位継承者の決定権は神貞王后趙大王大妃にあることを熟知し、そのために種々の「根まわし」に奔走した。一八六三年末、哲宗が急逝した。この王にも世子はない。王位継承者決定が緊急課題となったが、王族のほとんどが都を逃れ出て困窮の生活を送っており、その家族構成さえ中央の人々にはよくわからない状態であった。したがって、誰にも候補者の心当りがなかった。王室の最高位にある趙大王大妃が、昌徳宮の重熙堂に重臣一同を集めた。重臣のほとんどが安東金氏一族で、あとは少数の豊壤趙氏などである。王室章典にしたがって王位継承者の選考を行おうという席に、王族の男性は一人もいなかった。「国家の多事多難な現状を思うと、王位継承問題はきわめて急を要します」趙大王大妃の静かな声が、簾の間から流れた。その言葉通り、このとき国家は内外ともに多事多難であった。長期にわたって農民の叛乱が繰り返され、海のかたから、一八三一年にイギリス商船が来航して通商を求めて以来、欧米諸国の異様船が次々に押しかけ、一八四六年にはフランスの艦隊が来航し、天主教迫害に対する抗議文をつきつける騒ぎまであった。哲宗逝去の直前には、ロシアの提督一行が来航して

宮乞人

悲運をかこつ王族の一人に興宣君昱応(後の大院君)がいた。彼は一八二〇年の生まれで、王家との血縁はあまり近くはないが、祖父の恩信君が第二十二代の王・正祖の弟なので、まぎれもない王族の一人であった。彼は陵墓の守など王室の端役ばかりをつとめる逆境の中で、細々と一家を養っていた。興宣君昱応は町

の酒家に姿を現わし、庶民と共に酒をあり、彼らと膝をまじえて語り合うようになった。王族はもとより、両班階級の末端の者さえ、決して足を踏み入れない場所である。封建支配社会である朝鮮王朝は、支配層である両班を上位に、良人(サンノム)と呼ばれ、常民、常奴とも書く)、奴婢などによって構成された身分社会でもあった。その社会で、最高位にある王族の一人のこうした行動は、まさに破天荒と呼ぶべきものであった。

しかも、美声の持ち主である昱応は酒家の客たちを前に巧みな節まわしで歌謡や民謡を歌い、満座はうつとりと聞きほれて、やがて盛大な拍手を送った。また彼は妓女たちとたわむれ、その何人かと浮名を流した。王族の身分を忘れたような昱応の行為に、悪罵や蔑視が集中した。人々は嘲笑しながら、彼を「宮乞人」と呼んだ。乞食貴公子という意味である。顰蹙(ひんしゆく)を買うこうした昱応の態度は身を守るた

めのかくれ蓑であったのか、と人々が気づくのは、ずっと後のことである。金氏一族をはじめ、誰も「宮乞人」の胸中に何がかくされているかを知らなかつた。昱応は蔑視に耐えながら将来に夢を託し、その実現のため秘かに手を打っていた。昱応の夢とはまだ幼い第二子の命福を第二十六代の王にすることであった。それが実現すれば、昱応は王の実父(大院君)として政権を握ることも可能となるからである。

年表

1895年~1910年

- 一八九五年 一〇月一三日 日本公使三浦梧楼の指図によって、隠退していた大院君をかき出し、親日的な朝鮮軍内の訓練隊と合流して王宮に侵入し、閔妃を暗殺。
- 二月二六日 太陽暦の採用を決定。
- 一八九六年 二月一日 李範晋、李完用ら親露派が、高宗と王太子を貞洞のロシア公使館に移す。これを「露館播遷」という。
- 二月二日 総理大臣金弘集、農商工部大臣鄭秉夏ら、路上で群衆に殺害される。
- 二月三日 親露内閣成立。この日、度支部大臣魚允中殺害される。
- 二月八日 ロシア公使館内で政務をとる高宗が、義兵解散詔勅を公布。しかし義兵運道はますます盛んになり、忠州方面で日本軍

修好通商を求めた。

こうした外圧にどう対処すればよいのか。外交に不馴れな政府は、それを考えるための知識も経験も持ち合わせてはいなかった。宗主国・清国に頼りたいのだが、清国は阿片戦争でイギリスに敗れ、一八四二年に南京条約をかちとられて、上海など五港を開き、香港を割譲した有様である。こうした実情を知るにつけ、李氏朝鮮王朝は外圧から国を守る手段として強固な鎖国政策をとり続けてきた。



市井の王族 大院君の 執政始まる

御簾の内から流れる趙大王大妃の言葉は終わったが、それに応える発言はない。哲宗の死が急であつたため、金氏一族の間でもまだ意見がまとまらず、彼らは決定案を持たぬままこの席に集まっていた。しばらく重苦しい沈黙が続いた。やがて元老の鄭元容が一同を代表する形で、「慈聖の大

妃のご明旨にしたがつて、決意いたしました」と存じます」と述べた。これに対して反対の声はあがらず、鄭元容の言葉は黙認された。今は趙大王大妃の一存で、王位継承者が決定することになった。「それでは」と趙大王大妃は落着いた声で言った。「興宣君昱応の第二子、命福に大統を継承させることに決定します」

人々の顔面に、特に金氏一族の顔に驚愕の色が走った。彼らは耳を疑い、同族同士がまじまじと顔を見合わせるばかりで、声を出す者もない。白昼に悪夢を見る思いである。ある。《我々の邸に来ては金品をねだる「宮乞人」の息子が、王位につくというのか。まさ

司馬遼太郎の見た濟州島

李朝ノ官僚史は、朋党の対立とその党争の歴史だった。論ぜられるところは、大義名介論であり、他党を批難するのにもまた大義名分論なのである。

李朝初期から、政治の上での腫れものというべき党争の気配はあった。これが大きく腫れあがるのは「戊午の十禍」(一四九八年)というもので、その後、相ついで土禍がおこった。そのつと、廷臣や儒者が処

か、そんなことが・・・」これによって、三代にわたって一門から王妃を出した金氏は、勢道政治を続ける基盤を崩されることになった。電撃的な新王決定は趙大王大妃の果断な裁決によるものだが、その背景には、金氏一門の政治的腐敗に対する上下各層の全国的な不満、憎悪があつた。金氏以外の元老や重臣の間で昱応の「根まわし」が効果を挙げたのも、この背景によるものであつた。

趙大王大妃と正式対面の儀礼を終えた李命福は、群臣一同を謁見した。李氏朝鮮王朝第二十六代の王・高宗即位の儀式が挙げられ、この時からその父・昱応は興宣大院君と

刑されたり、大量に流罪になつたりするのである。

「流罪の地は、濟州島だった。濟州島流人伝(金奉鉉著・国書刊行会)」というすぐれた研究書がつけられるほどに、その数は多かつた。ほとんどが中央の官僚・知識人であつたために、濟州島の側からいえばいわば優生学の実験場のようなつた。いまでも、濟州島は秀才が多く、美人も多い、といわれるのは、李朝の慢性病ともいえるべき党禍のおかげともいえそうである。

なり、王母閔氏は驪興府大夫人に封爵された。大院君とは王の実父に贈られる名称だが、李昱応だけがあまりに有名なので、今は大院君といえれば彼を指す名称として使われている。高宗即位の正式発表は翌一八六四年一月に行われた。趙大王大妃は「私は摂政の任にあるが、女の身であり、国家多難の時であることを考慮して、この後は興宣大院君の協力を得て大政を改革することに決定する」と述べ、大院君の処遇が決まつた。趙大王大妃は、金氏一族への凋落を告げる言葉にほかならなかつた。大院君の執政は閣僚の最高位である三政丞(領議政とその下の左、右議政)をはじめ、官位を一存で決定する権力を握り、国家紀綱を強化するため、大胆な人事の改革に着手した。金氏一族は次々に官職を追われ、両班内部で四色と呼ばれる老論、少論、南人、北人の間の党派争いは、長いあいだ朝鮮封建政治の病弊であつたが、四色平等を唱えて、長い間政権の座を独占してきた老論の老論の専横を押えて、

と衝突。
七月七日 新任日本公使原敬着任。

一八九七年

一月六日 閔妃の諡号を明成と決定。

二月一日 高宗、ロシア公使館から慶運宮に還宮。

一〇月二日 皇帝即位式を挙行し、国号を大韓帝国、王后閔氏を皇后、王太子を皇太子と改称。

一月二二日 明成皇后の国葬挙行。

一八九八年

二月二日 大院君死去。満七八歳。

四月二五日 ロシア駐日公使ローゼンと日本の西徳二郎外相との間で、両国が朝鮮への内政に干渉しないという西・ローゼン協定が署名される。

六月九日 清朝とイギリスの間で九竜租借条約が締結され、イギリスが九九年間の租借権を得る。

六月三〇日 日本初の政党内閣が誕生する。大隈重信が首班、板垣が内相となる。

一八九九年

三月二九日 イギリスとロシアの間で中国での鉄道敷設権に関する協定が結ばれる。

一九〇〇年

三月一日 集会及び政社法が廃止され、治安警察法が公布される。

四月一日 パリ万国博覧会が開幕。

五月一日 中国で義和団が蜂起する。

七月三日 アメリカのヘイ国務長官が義和団事件鎮圧に参戦している日本、イギリス、ドイツなど一カ国に、中国の門戸解放を要

それまで南人であるため不遇であった柳厚祚を右議政に抜擢するなどして人々を驚かせた。また軍布の負担を免除されていた両班にも戸布法を施行して、平等に負担するようにし、土地を調査して、土地帳簿にのせないで地方官がその税収を着服していた隠田を摘発したり、還穀制度を調査して、中間搾取していた地方官を摘発して客赦なく死刑または流罪に処した。一方、不遇時代につき合った庶民の中から多くの人々を選んで一種の親衛隊を組織し、情報や市井の動向をさぐらせた。これは大院君の政治体制強化を支える陰の力となった。



欧米の開国
要求拒否の
衛生斥邪論

書院は本来、そこに祀られる先賢たちの精神をもつて後進たちを教育する所だが、次第に朋党の温床となり、当時、各地に六百七十九カ所の書院が設立されていた。大院君は

その書院の整理を断行した。国王直筆の書額を賜り、土地や奴婢を与えられた賜額書院四十七ヶ所を残したのみで、その他すべての書院を廃止するという荒唐治だった。これがのちに儒者たちの怨みをかき、政治的失脚の一因ともなった。

大院君は王室の権威を高めるために、豊臣秀吉の朝鮮侵略のとき焼失したままになっていた景福宮の再建工事を敢行したが、当時の財政状態からみて無謀な計画としかいえない。三年の歳月を費やして一八六七年に竣工したが、これには莫大な経費と労力がつぎこまれ、民衆の怨みをかうことになった。

大院君は排外主義者であったが、衰退した王権を再確立しようとした立場からの改革主義者であった。朝鮮半島を資本主義世界に組み入れようとする欧米列強は、その手段として天主教や通商要求だけでなく、武力侵略にも乗り出してきた。それに対して朝鮮は強烈な鎖国攘夷策を取ってきたが、それを思想的に支えたのが衛生斥邪論であった。

景福宮と総督府

植民地支配のための中央官庁となったのが朝鮮総督府で、「天皇に直隸」する専制君主のようなものだった。初代の寺内正毅からはじまって最後の阿部信行にいたるまで、一九二〇年代の海軍大将齋藤実のほかはすべて陸

軍大将だった。

その総督府の庁舎が景福宮の敷地内につくられたために、朝鮮建築美の粋を集めた景福宮の本来の姿を、完全な形でみることはできない。日本の民芸運動の指導者柳宗悦がこのような愚行を痛烈に批判したことは、あまりにも有名な話である。

儒学者たちによって唱えられた衛生斥邪論は、侵略を排撃しようとする朝鮮人民の素朴な愛国心と結びつき、当時の時代精神として定着していた。そして鎖国朝鮮の欧米列強に対する緊張度は、大院君の執政時代にはいつて最高潮に達した。

朝鮮で天主教の布教が始まったのは一七八〇年代からで、社会不安を背景に広く各層に浸透したが、斥邪思想によって、天主教という宗教が禁止されただけでなく、天主教を信奉する欧米列國のすべてを否定するものであり、そ

の結果として各先進國の社会制度や科学技術に対する研究関心までがすべて圧殺されるという結果になった。天主教に対する弾圧はほぼ六カ月にわたり、国内のあらゆる地域で続けられた。丙寅教難と呼ばれる天主教大弾圧では、信者とその家族三万二千人のうち、八千人が殉教したという。一〇年間におよぶ大院君の執政は一八七三年におわった。高宗は成年して二十二歳になり、大院君に反対する勢力は、「国王親政」の名のもとに圧力をかけて彼を隠退させ、代って今度は京畿道驢輿閔氏によ

請する。

八月十五日 八カ国連合軍が北京に入ったため、西太后と光緒帝が西安に向けて逃亡する。義和團は鎮圧される。

一〇月十九日 第四次伊藤博文内閣が成立する。

二月三〇日 列國公使団から義和團事件について要求されていた一二箇条の講和条件を清國が受諾する。

一九〇一年 三月二〇日 日本が清に対し、ロシアの満州に関する要求を拒否するよう勧告する。

六年二月 第一次桂太郎内閣が成立。

九月七日 北京で、清國と一カ国全權との間に義和團事件の最終決議書が調印される(辛丑条約)。

清國の半植民地化が進む。

九月十八日 伊藤博文が、日露協定交渉のため横浜を出発する。

一九〇二年 四月八日 ロシアと清朝が満州条約に調印し、ロシアは満州からの撤兵を約束する。

五月二十八日 日本の第一銀行が韓国で銀行券を発行する。

六月一四日 列國公使會議が北京で、義和團事件の賠償金配分議定書に調印する。

七月四日 アメリカ政府がフィリピン植民地の統治を宣言する。

一月五日 日本政府が、ロシア提唱の日露米の三国共同保障による大韓帝國中立案を拒否する。

一二年二八日 英國で建造された軍艦「三笠」が横須賀に到着する。

る勢道政治がはじまったのである。大院君は国王の外戚による勢道政治の復活を防ぐために、一八六六年に夫人の実家であり、両班の家門ではないが、勢力があまり強くない驢興閔氏から王妃を迎えた。これが閔妃で、高宗は十五歳で、閔妃は十六歳だった。大院君は高宗の王妃選びを慎重にしたはずだったが、閔氏一族は大院君に不満をいだいていた勢力と結託して「国王親政」の名分をかかげ、ついに大院君の追い出しに成功したわけで、日本側は大院君の隠退と閔氏勢道政治の出現をとらえて、一八七五年(明治八)九月

アメリカの 故智まねた 江華島条約

て、一八七五年(明治八)九月には江華島事件を起こし、七年二月には江華島条約を強要した。一八七五年韓国京畿道の漢江の河口にある小島・江華島付近で示威演習を行なった日本軍艦「雲揚」が砲撃されたことを口実に、その年の十二月、日本政府は江華島事件の賠償と修好条約締結の交渉のため、朝鮮へ使節団を派遣することに決定した。陸軍中将兼参議黒田清隆が特命全権弁理大臣に、元老院議員井上薫が特命副全権弁理大臣に任命された。そして翌年朝鮮の開国を定めた日本との修好条規(江華島条約)が結ばれた。江華島事件から条約締結にいたるまでのシナリオは、ちょうど日本に対するペリーのそれとよく似ているいわれ、事実、日本の外務卿寺島宗則は事前にアメリカ公使ビンガムを訪問して、「日本の目的がペリー提督の故智に倣う朝鮮の平和的開国」であると説明している。江華島条約によって、江戸時代以来倭館貿易がおこなわれてきた釜山をはじめ、元山、仁川の三港が日本に開港され、日本居留民には治外法権が適用された。この条約に端を発し、アメリカ、イギリス、ドイツ、ロシア、イタリヤ、フランスと次々に修好通商条約が結ばれた。江華島条約後、朝鮮の

柳宗悦と光化門

光化門よ、光化門よ、お前の命がもう旦夕に迫ろうとしている。併し今お前を死から救おうとする者は反逆の罪に問われるのだ。...

景福宮の正面に立つ重層楼閣の光化門は一三九五年に李氏朝鮮王朝の太祖李成桂によって建立されたが、

壬辰の乱(豊臣秀吉の朝鮮出兵)の戦火で焼失し、一八六五年に大院君によって再建された景福宮の正門である。その光化門に朝鮮建築美を見出した柳宗悦はいたく感動し、朝鮮総督府の意図で光化門を取り壊されると知った時、一九二二年(大正十一年)九月号に「失われんとする一朝鮮建築の為に」という一文を『改造』に発表した。「光化門よ、光化門よ、

お前の命がもう旦夕に迫ろうとしている。併し今お前を死から救おうとする者は反逆の罪に問われるのだ。...

の姿で今日の正しい位置に帰ってきたわけではない。東側に移されてから約三十年の後、韓国動乱の戦火を全身に浴びたのだ。旧位置へ戻しての再建が計画され、古い記録や写真などによって復元が完成したのは一九六八年(昭和四十三年)であった。「光化門」というハングル文字は、当時の朴正熙大統領の筆跡である。

- 一九〇三年 四月一八日 ロシアが満州撤兵を履行せず、新たに清国に対して要求をつきつける。
- 六月二三日 満韓問題について御前会議が開かれ、ロシアとの交渉案が検討され決定する。
- 七月二三日 伊藤博文が枢密院議長となる。
- 一〇月六日 日露交渉が開始される。
- 二月四日 ロシアが仁川に軍艦を集結させる。
- 二月二八日 第一・第二艦隊を統合して連合艦隊が編成され、司令長官に東郷平八郎が就任する。
- 一九〇四年 一月二三日 日本政府が、満州問題に関する最終案をロシアに提示。
- 二月二〇日 日露戦争勃発。
- 二月二三日 日韓議定書調印。韓国は日本軍による韓国内の戦略要地収用を承認。
- 一〇月二二日 日本の陸軍大将長谷川好道、韓国駐劄軍司令官としてソウル入り。
- 一月五日 前独立協会員李承晩、高宗の密書を携えて渡米のため仁川を出発。
- 一九〇五年 三月二日 崔益鉉、日本の侵略の危険性を上疏し、日本軍憲兵に逮捕される。
- 三月二五日 高宗、ロシアに日本の牽制を訴える密書を伝達。
- 一〇月一六日 日露平和条約(ポーツマス条約)公布。
- 一月九日 日本特命全権大使伊藤博

対外貿易は、ほとんど日本が独占し、朝鮮から米を中心とする食糧と金もちだし、日本への米や豆の輸出によって食糧危機が深化し、日本からは綿布や雑貨品が輸入されて土着産業を直撃するという貿易構造で、朝鮮の民衆は食糧難と物価高に喘いだ。そのため、閔氏一派の対日軟弱外交に対する非難が高まり、一八八二年にはソウルで軍料支払いの不正に憤激した軍人暴動が起こし（壬午軍乱）、反閔・反日闘争を通じて大院君政権が復活した。ところが清国は三千名の軍隊を派遣してこれを弾圧し、大院君を天津に拉致し、一八八五年に帰国するまで、ここで監禁した。

敗し、それに加担したほとんどの者が殺害されたなかで、ようやく金玉均ら主謀者九名だけが日本およびアメリカに亡命した。これが甲申政変とよばれる政変で、日本に亡命した金玉均、朴泳孝は、本国が派遣した刺客にねらわれつづき、一八九四年、彼の持論である「三和主義」、つまり西洋のアジア侵略に対して日本、朝鮮、中国が連帯しなければならぬということ、清国の李鴻章に説得するために上海に渡ったが、日本から同行した洪鍾宇という刺客によって射殺され、四十四歳という若き命に終止符を打った。

日本軍排除で決起した東学党の乱

一八九四年二月、全羅道古阜郡で民乱が起こった。かねてから農民を搾取して悪名高い郡守が、水税を滞納した貧農を極刑に処したことがきっかけであった。これが甲午農民戦争の発端である。この甲午農民戦争は東学思想と深く結びついていたので、東学党の乱とも呼ばれる。その指導者、全珠準は古阜の出身で、古阜郡衙の官吏であった彼の父も百姓一揆を指導して刑死している。全珠準は一八九〇年に東学の第二世教主崔時亨の門下にはいり、その後は農民の反乱の指導や斥洋斥倭運動、閔氏一族の勢道政治弾劾運動などに活躍していた。体が小さかったので「緑豆」と綽名され、彼への敬愛をこめて歌われた「緑豆と青鳥」などの童謡や民謡は今も伝えられている。政府は県庁などを襲撃する各地の東学教徒の勢いに驚き、洪啓薫を両湖招討使として蜂起鎮圧に向かわせた。洪啓薫とは、壬午軍乱のとき閔妃を助けて昌徳宮から脱出させ、

民乱の時代を放浪した詩人・金笠

民乱が頻発した時期、津々浦々を放浪し、即興的な漢詩を書き散らした奇人がいた。常に雨露をさえぎり、陽の光をまともに見るわけにはいかなない罪人として笠をはなさなかったことから、人は彼を金笠と呼ん

だ。本名は金炳淵といい、ソウルでも権勢のある壮洞金氏の出身だったが、金笠がまだ五歳の時、平安道宣川の防禦使だった祖父・金益淳は、洪景来の乱に遭遇し、夜陰に突然農民軍に襲われ、縛りあげられて降服してしまった。乱が鎮圧されてのち祖父は謀反大逆罪で死刑となり、一家は前科をもつ廢族となった。父・金安根は

文、保護条約強行のため渡韓。
一月十五日 伊藤博文、高宗に条約案を提示、受諾を強く求める。
一月十七日 第二次日韓協約（韓国保護条約）調印。翌十八日、群衆、大韓門前に殺し新条約の破棄を主張。
一月三十日 侍従武官長閔泳煥、自決。
二月二〇日 日本、韓国統監府及び理事庁官制を公布。

一九〇六年
三月二日 初代統監伊藤博文、着任。

一九〇七年
四月二〇日 李儁、李相尙、高宗の密書を携えてハーク万国平和会議

に出席のため出国。密書の内容は、日本の韓国保護国化の実情を世界に訴えるもの。
六月二十九日 ハーク密使、平和会議への参加を申請し、拒否される。

七月、李儁はハークで殉国。
七月三日 伊藤統監、ハーク密使事件で高宗を追及。

七月八日 総理大臣李完用はじめ全閣僚、高宗の讓位を勧告。大韓自強会、同友会、キリスト教青年会の会員二千余名、大安門前で讓位反対示威。

七月十九日 高宗、讓位詔勅を発す。
七月二十四日 日韓新協約（丁未条約）調印。次官政治の開始。日本の韓国内政監督権が確立。

七月三十一日 軍隊解散詔勅発給。（八月一日、訓練院で軍隊解散式を挙行）

八月一日 侍衛第一連隊第一大隊長朴星煥自決。侍衛隊の一部、西小

その功によってめきめきと出世した武官である。だが討伐軍の指揮官がつとまるような人材ではなく、しかも彼が率いる政府軍の兵たちは練度が低い上に東学教徒に好意的で戦意に乏しかった。洪啓薫は各地で農民が主体である東学軍に敗れ、連日のように政府へ援軍を乞う使者を出した。

東学とはその名が示すように、西学と呼ばれた天主教に反対する立場をとって、没落両班であった崔済愚が十九世紀なかばすぎにおこした新興宗教である。しかしその教義には天主教に近い部分もあり、さらに儒教、仏教、道教(老子教)をもとり入れて、「敬天順天」を根本理念とした。政治の腐敗を糾弾し、民衆の救済を

目標としているが、簡明な教義を信じ、呪文を唱え、霊符をいただけば万病もなおるといふ現世的利益を約束したこの宗教は、慶尚道方面を中心に広く人々の心をつかんだ。金氏一族の勢道政治下で貧困にあえぎ、また異様船の出没により外国からの侵略があるのではないかと危機感を抱く大衆にとつて、東学は唯一の心のよりどころであった。政府はこれを邪教として弾圧し、一八六四年に教主崔済愚を「感世誣民」の罪名で処刑した。これは高宗即位の直後、大院君が初めて執政の座についたばかりの時であった。

崔済愚は刑死したが、やがて東学は第二世教主崔時亨によってさらに勢いを増し、三

南(慶尚、全羅、忠清)をはじめ各地に広まった。防毅令により咸鏡道で民乱(民衆の反乱)が起こったのをきっかけに、各地で悪政に反抗する乱が相次いだ。東学はこれを指導し、ついに民乱の主導権を把握するに至ったのである。日清開戦前の東学教徒第一回蜂起の目的は、閔氏一族を中心とする腐敗政治の糾弾と、日本人排斥の「斥倭」であった。しかし第二回蜂起の目的は、日本軍の排除である。決起の理由は、「日本は武力で王宮を占拠して主権を犯し、日清戦争を起し、『内政改革』の美名のもとに政治、経済など各方面の秩序を破壊している。

『除暴救民』『保国安民』のため、こちらも武力で日本軍を

排除しよう」というものであった。

朝鮮国土を 戦場にした 日清戦争



忠州から北上してきた全球

準は、「外敵を退け、祖国の独立をからとるまで、あくまでも闘おう。勇気を持って」と各地の教徒へ呼びかけ、たちまち数万の農民が集まった。新たに編成された東学軍は初步的な戦闘訓練を受け、各地で闘いながら公州を目指して進撃した。決死の東学軍は時に日韓連合軍を退けることもあったが、ついに十二月、公州の戦場で壊滅的な大敗を喫した。それまでに全球準は同度か、日本軍の指揮下にある朝鮮政府軍に通告文を送り、「同じ朝鮮民族として、斥倭救国を望む立場は同じではないか。外敵に翻弄されて、同族同士が殺し合う愚はやめようではないか」と申し入れた。しかし日本軍の圧倒的な強さを知った朝鮮政府軍は、東学軍に対

李朝の陶器を こよなく愛した柳宗悦

柳宗悦(やなぎ・むねよし)一八八九〜一九六一

哲学者、民芸運動の創始者。東京に生まれた。父は海軍少将で数学者の柳絃悦(ならよし)、母は勝子(柔道家嘉納治五郎の姉)。一九一三年

東京帝国大学文学部心理学科を卒業。翌年、声楽家中島兼子と結婚。一九〇九年、柳は李朝の壺に心をひかれ、やがて朝鮮在住の浅川兄弟と親しくなり、朝鮮を旅行し、日本の朝鮮政策を批判する文章を発表。

美術館を開設した。李朝の工人のつくった陶磁器の美しさに目ざめた後、柳はひるがえって日本の日常雑器の中に、無名の工人のみことな作品を見いだした。一九三六年に日本民芸館を創立。その後、日本のさまざまな場所に民芸館ができ、民芸風は各地のみやげ物店や料理屋のスタイルに影響をおよぼした。その間、初期大津絵、木喰、円空仏、沖繩の民芸の研究への道をひらいた。

門洞一帯で日本軍と熾烈な交戦(第三次義兵運動の開始)

八月七日 英親王(のち梨本宮の長女方子と結婚)を皇太子に冊封

八月二十七日 純宗皇帝、慶運宮で即位

一月七日 日本軍憲兵隊が警察権を掌握。

二月五日 皇太子根、伊藤博文に伴われて東京に留学。

一九〇八年 二月二十八日 東洋拓殖株式会社(東拓)設立。以後、日本人移民いっそう盛んになる。この年、韓国各地の義兵と日本軍との交戦一九七六件、交戦義兵数八万二千七十六名。

一九〇九年 六月一日 伊藤博文、日本の枢密院議長に就任。

七月六日 日本の閣議、韓国併合に関する件を決定、天皇の裁可を受ける。

一月二十六日 安重根、ハルビン駅頭で伊藤博文を射殺。

一九一〇年 八月二二日 統監寺内正毅、総理大臣

李完用と会見、「韓国皇帝陛下は韓国全部に関する一切の統治権を完全かつ永久に日本皇帝陛下に譲与す」という日韓併合条約に調印。

八月二十九日 讓位詔書、日韓併合条約を公布、大韓帝国を朝鮮と改称し、朝鮮総督府

一九一一年 四月一七日 土地収用令を公布、施行

八月二三日 臣民教育と日本語の普及

しかつてのよゝな反応は示さなかつた。「緑豆將軍」と呼ばれた全珠準は公州の戦鬪に敗れて後、全羅道の泰仁に逃れ、最後の反撃を試みたがこれも失敗した。全羅道の淳昌で逮捕された全珠準はソウルで日本公使館に引き渡され、一八九五年四月他の同志たちと共に処刑された。第二世教主崔時亨は東学軍全滅の後も各地の山村をまわつて布教に努めたが、一八九八年ついに捕われて処刑された。こうして東学徒集団は壊滅したが、その精神はやがて抗日義兵にひきつがれ、また民族宗教の天道教となつて生き続ける。

一八九四年八月一日、日清両国は宣戦を布告した。日清戦争とは、その名が示す通り日本と清国との戦争である。しかし、まず戦場となつたのは朝鮮の国土であつて、民衆は彼らとは無関係な他国の思惑によつて起こつた戦争の被害を真向から浴びせられていた。当時の日本軍の軍律は厳しく、どの資料にも日本兵による略奪、暴行などの記述はない。しかし戦争に物資や人員の調達はつきもので、日本

司馬遼太郎の見た濟州島

私は濟州島で、ミコを訪ねようとしている。ふつう学問の上ではシャーマンとよばれるが、韓国一般では巫党(ムーダン)とよばれ、濟州島ではシンバン(神房)とよばれる。ごく雑とした印象では奇俗のようにみえるが、明治以前の日本では、似たようなひとたちがいくらでもいたのである。

たとえば、江戸期の大坂では、いまの天王寺区権寺町付近のせまい露地の両側に巫女の家がならんでいて、巫女町とよばれていたという。巫女の家は独特の格子づくりで、人口にシメナワを張り、またノレンをかかけ、ことごとく定紋を染めぬき

屋号も染めぬいていた。

巫女に屋号というのはおかしいが、そこは商いの町だから、諸事商標(ブランド)が必要だったのである。黒格子の嫁という屋号(ブランド)もあれば、橋屋小女老、隠居藤、黄格子の万、というのもあった。女のミコだから、屋号もどこかあてやかである。

そういつたことが、江戸後期の大坂の本屋で狂言作者でもあった西沢一風(一八〇一〜五二)の『皇都午睡』に書かれている。

巫女の老舗はどうやら世襲だつたらしい。

それによると、客は死者や生者のことをばききたいために「ここへやってくる。あるじの巫女は梓の弓(これは巫女の必携具)を手にもち、箱(中世、外法箱とよんだものであろう)を

しきりにたたき、まず神おろしをす

る。やがて死者が(ときに生者が)巫女の口を借りてことばを発するといふのである。いまは、この種の巫女は青森県恐山に在るだけではないか。(恐山でイタコとよばれる。)

明治後、神道が「国家神道」になつた。

太政官と並んで神祇官がおかれ、ついで神道は内務省の管轄になつた。神官は内務官吏になつた。明治初年、神仏分離といういわば暴挙をやつて、たとえ熊野大権現の「権現」がはずされ、社僧は追われ、神社から仏教色がぬぐい去られた。

一方、村々の淫祠こわされ、付近のしかるべき神社に祀りされた。ミコもよくないとされた。



日本人が王宮に乱入 閔妃を暗殺

一八九五年四月、日清戦争に勝利した日本は清国との間に下関条約を結び、清国はこの条約によつて遼東半島、台湾、澎湖諸島を日本に割譲したが、ロシアが主導したフランス、ドイツの三国干渉によつて、日本は割譲された遼

東半島を清国に返還した。清国が敗北してのち、朝鮮は前近代における清国との宗属関係に終止符を打ち、一八九七年には国号を朝鮮から大韓帝国、国王を朝鮮国王から大韓皇帝と改め、年号も清国のそれを止めて、独自に光武という元号を建てた。従来親清的であつた閔妃や高宗の側近たちは、日本を排除するためにロシアに接近したが、一八九五年十月、日本公使三浦梧楼の指図によつて日本人グループが隠退していた大院君をか

を目的とする朝鮮教育令公布。

一九一九年

一月 高宗が死亡。高宗の死後、韓民族が日帝の抑圧に抵抗して、民族的な民族独立運動を展開する雰囲気生まれる。

二月八日 日本に留学していた韓国人学生四〇〇余名が、東京で独立を要求する宣言書と決議文を日本政府に通告(一八八独立宣言)

三月一日 ソウルバゴタ公園に集まつた数千の大衆の前で青年学生たちの手で独立宣言文がまかれ、朝鮮の独立が宣言された。群衆は「朝鮮独立万歳」を叫び、デモ行進を開始した。日本官憲はデモ隊に無差別銃撃を加え、少なくとも七六〇〇人の死者、四、五万人の負傷者、五万人以上の逮捕者を出した。日本官憲の発表では、五月末までに、七五〇九人が死亡し、一五九六一人が負傷し、四六九四八人が検挙された。三月中旬以降、蜂起は地方の労働者や農民が結合した暴動が基本となつた。アメリカは日本の内政問題として、同情せず、日本の弾圧を支持した。ウイルソンの民族自決は幻想にすぎないことが理解された。上海に大韓民国臨時政府樹立。その他、数力所も同様に樹立された。

一九四五年

八月二五日 天皇が終戦勅書をラジオ放送(玉音放送)し、太平洋戦争が終結する。

八月二〇日 ソ連軍が「朝鮮人民の幸

つぎ出し、親日的な朝鮮軍内の訓練隊と合流して王宮に侵入し、閔妃を殺すという、シヨッキンゲな事件が起こった。その現場を目撃した二人の西洋人がいて、この問題が国際化しそうになったため、日本政府は三浦ら四十八名の日本人グループを広島の監獄に拘留したものの、翌年一月には無罪釈放した。

日清戦争によって台湾を植民地にした日本ではあったが、朝鮮を植民地化することはできなかった。三国干渉を主導したロシアという対抗勢力が現れたからで、ロシアも、一八九六年には北満州を横断してチタからウラジオストクをつなぐ東清鉄道の敷設権、また九八年には旅順、大連の租借権を獲得した。日本は閔妃殺害事件後、朝鮮での反日気運を考慮して政治的な動きは控え目だったが、ロシアを仮想敵国として、日清戦争による清国からの賠償金や、国家予算の平均五割をつぎ込んで陸海軍を拡張し、外交的には、ロシアの南下によって極東アジアでの利権に脅威を感じていたイギリスやアメリカに接近

し、その支援をうけるための活動を展開した。

司馬遼太郎の見た濟州島

濟州島は、タライを伏せて海上にうかんでいるような島で、川らしい川がない。この朝天里にもない。ふと思ったことだが、この島が、中国・朝鮮それに日本という三点をむすぶ位置にありながら、近代以前、一度も海上交通の要衝にならなかつたのは、木造船時代の良港にめくまれなかつたためではないか。(李朝は鎖国だったからむりはない。それ以前の高麗

朝はやや国を開いており、さらに以前の統一新羅時代は海上商業のさかんな時代だった。でありながら、外洋をゆく船が濟州島を根拠地にすることをよるこぼなかつたのは、港の条件に問題があつたのにならぬ。濟州道の地図をひろげ、良港らしきものをさがしてみると、やはり島の内部の西帰浦である。かつてはここから九州や大阪へゆく定期航路があつたのも、当然かと思える。

しかし、こまつたことに陸地(濟州人の慣用語。朝鮮半島のこと)は北にある。このため濟州道の治所も、北の濟州市にありつづけてきた。である以上は、李朝時代の濟州府の外港は、西帰浦ではなく北のどこかに設けられねばならない。

福を創造するのは、朝鮮人民自身でなければならぬ」という赤軍布告を発表。

九月六日 建國準備委員会が、ソウルで全国人民代表者会議をひらき朝鮮人民共和国の成立を宣言した。委員会の構成メンバーは、主席の李承晩や金日成など。

一〇月一〇日 朝鮮人民共和国を認めない旨のアーノルド米軍政長官声明を発表。八月八日に対日宣戦布告をしたソ連が、北部朝鮮に軍を進めると、アメリカは三八度線を境界とした米・ソによる分割占領案を提起し、ソ連が同意。

し、その支援をうけるための活動を展開した。

日露戦争に勝利した後 保護政治

タリア、オーストリア八カ国の連合軍三万六千名が共同出兵してこれを弾圧したが、その主力は二万二千名の日本軍だった。つまり日本は列強に「極東の憲兵」としての実力を示威したわけで、他方、義和団弾圧に出兵したロシア軍は、満州に踏みとどまつたばかりでなく、一九〇三年七月には鴨緑江を越えて龍岩浦を租借しようとしたが、日本が抗議して実現せず、両国間の武力衝突気運はエスカレートするばかりだった。

日露戦争は一九〇四年二月八日、仁川沖と旅順口のロシア艦隊に対する日本海軍の先制攻撃からはじまり、二月十日に日本が宣戦布告した。朝鮮政府はその前の一月二十三日に局外中方を宣言したが、外国軍の侵入を阻止するだけの軍事力をもたない宣言の効力はなかつた。日露戦争に勝利した日本は、一九〇五年九月、ワシントン郊外ポーツマスでの講和条約で朝鮮に対する日本の「保護権」をロシアに認めさせ、それにつづく同年十一月の第二次日韓協約(乙巳保護条約)では朝鮮の外交権を剥奪し、統監府を設置して朝鮮に対して保護政治を強制した。このような保護政治のために日本は韓国統監府と理事庁官制を公布し、伊藤博文が初代統監に任命された。

二月 モスクワで米・英・ソ三国外相会議が開かれ五年間の信託統治が決定された。日本の三六年間の植民地支配から解放されて独立を喜んでいた国民はこれに反対して、連日デモを繰り返して反託運動が全国的に拡大

一九四八年 五月一〇日 韓国総選挙実施、北韓の議席を残したまま、五月三〇日に制憲国会が召集された。

八月一五日 大韓民国樹立。九月九日 北朝鮮樹立。

二月 パリの国連総会で、四八対六という絶対多数で大韓民国が韓半島の唯一の合法政府であると公認された。

一八九九年に中国では、日清戦争後の列強による租借権や利権奪取に反対して、「扶清滅洋」を掲げ西洋を駆逐する(の)のスローガンをかかげた義和団が峰起し、一九〇〇年に天津や北京に進出し、外国公使館を包囲した。これに対処するためにアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、ドイツ、日本、イ

日露戦争は一九〇四年二月八日、仁川沖と旅順口のロシア艦隊に対する日本海軍の先制攻撃からはじまり、二月十日に日本が宣戦布告した。朝鮮政府はその前の一月二十三日に局外中方を宣言したが、外国軍の侵入を阻止するだけの軍事力をもたない宣言の効力はなかつた。日露戦争に勝利した日本は、一九〇五年九月、ワシントン郊外ポーツマスでの講和条約で朝鮮に対する日本の「保護権」をロシアに認めさせ、それにつづく同年十一月の第二次日韓協約(乙巳保護条約)では朝鮮の外交権を剥奪し、統監府を設置して朝鮮に対して保護政治を強制した。このような保護政治のために日本は韓国統監府と理事庁官制を公布し、伊藤博文が初代統監に任命された。

一九五〇年 六月二五日 北朝鮮軍が三八度線を突破して韓国に侵入したことを導火線に韓国動乱が勃発した。

日韓併合条約が調印されたのは一九一〇年(明治四十三年)のことだが、伊藤が統監となつた一九〇五年末から、朝鮮は実質的には日本の植民地とされたのである。



植民地に
抵抗して
各地で義兵

初代統監の伊藤博文は軍服姿だった。これは、日露戦争後も朝鮮に駐留しつづけていた韓国駐劄軍を統帥する元帥を兼任していたからで、同時に、このとき日本右翼団体の元祖である黒龍会の主幹内田良平を、幕僚として同伴していた。内田の任務は、韓国内に親日団体をつくつて、「韓国より合邦を提議せしむる」ことにある、それが李容九や宋秉峻による一進会という親日団体として登場した。その初代統監の伊藤博文は一九〇九年十月二十六日、安重根によつて満州のハルビン駅頭で射殺された。安重根は捕らえられ、旅順刑務所で処刑された。

植民地に反対して、義兵などによる反日抵抗運動が各地で起きた。反日義兵運動といふのは、正規の軍隊による抵抗ではなく、儒者や解散軍の指導による農民その他の民衆によるゲリラ闘争である。その最盛期であつた一九〇八年には、韓国駐劄軍司令部の発表によると、戦闘回数一千四百五十一回、参加義兵数六万九千八百三十二名となつてい

るが、大多数の義兵部隊は、戦闘経験がなかつたうえに、その武器も火縄銃や刀槍などで救国運動を展開した。合法的な愛国啓蒙運動が困難になるにつれて、新民会などの秘密結社が中核となつて活動をつ

づけた。ところが、一九一一年に「寺内総督暗殺未遂事件」をでつちあげて新民会会員に対する集中的な検挙をはじめ、被検者六百余名のうち百五名を起訴した。「百五人事件」と称されるもので、日帝の意に反し

司馬遼太郎の見た濟州島

いま日本の海女は伊勢の志摩半島の海女が有名だが、他にもほそほそしごとをつづけている海女の漁村がある。日本海岸では長崎、福井、石川、新潟などの各県で、太平洋岸では岩手、千葉、静岡、三重、徳島の各県にも、わずかながら海女がいる。

地図の上 朝鮮国に くるぐると
墨をぬりつつ 秋風を聴く
石川啄木

日本の植民地となつた朝鮮を想つて、石川啄木は次の歌を詠んでゐる。「地図の上 朝鮮国にくるぐると 墨をぬりつつ 秋風を聴く」
当時、啄木のように醒めた目で日韓併合を眺めた日本人は少なく、国民の大多数は日本が世界の

一等国になつたという喜びに酔つて、花電車や旗行列などとお祭り気分であつた。国を失なつた朝鮮の人々の悲嘆を思うこともなく、義兵たちが命を賭けた抗日運動の実態など知らされてもいなかった。
私に濟州島の海女が、鰻やさざえなど金になる貝類ばかり採ってきたかと思つていたのだが、いまはたしかにそうである。以前は主たる目的は馬尾草(はびそ)という肥料用の海藻を採ることだった。つまり、海に入るのは農業の付属作業だったといつていい。
そのことをかつて泉靖一氏の『濟州島』で読み、あわせてこの火山島の地味がいかに痩せているかを知つたが、しかし宮下章氏の『海藻』(法政大学出版局)を読むにおよんで、短見であることに気づいた。日本でも江戸時代は海藻を肥料にしていたのである。ヨーロッパでも、十二世紀ごろからさかん

に海藻肥料がつかわれるようになったという。世界じゅうがそうしてきたのである。
濟州島で肥料用に採集されていた馬尾草という海藻は、『日本国語大辞典』によると、ホンダワラのことである。日本でもたくさん採れる海藻で、やはり肥料としてつかわれてきたらしい。前掲の『海藻』に『庖厨和名本草』(江戸期の食用食物の書物)の引用があり、それによると、日本人はその新芽は食べてきたという。
新芽を煮てこまかくきざみ、醤油、酒、塩で調味すると、とろりと粘りが出て結構なものだといふのである。くどくどいうと、これに土シヨウガやクルマミを刻んで入れると、とろろよりうまいらしい。
濟州島では馬尾草の新芽を食べるかどうかについては、聞きもした。
※「司馬遼太郎が見た濟州島」は同氏著の『耽羅紀行』から引用させていただきました。

補遺

濟州島民渡航史

在日同胞社会の形成

日本内務省警保局の調査資料によると、一八九五年に在日同胞数は一二人だったが、日韓合邦以後に急増する。一九一五年には三九八九人、二年後の一九一七年には一万四五〇一人、一九一九年には二万八二七二人となった。そして太平洋戦争（第二次世界大戦）に突入して以後、徴用、徴兵された在日同胞は激増し、敗戦（祖国解放）当時には二〇九万七二七〇人に膨れ上がった。

一九四五年八月一五日の祖国解放は民族の大きな喜びであった。解放後、在日同胞は帰心矢のごとく、雪崩を打つように帰国したが、諸般の事情で約六〇万人が帰国を断念し、在日同胞社会を形成した。日本法務省入国管理局が一九

九二年八月に発表した在留外国人総数は一〇七万人で、このうち六八万七九四〇人（非永住者包含）が在日同胞である。また、濟州道出身の在日同胞は公式総計で約一二万人に達するが、未登録の同胞たちを合わせると一五万人を上回ると推計されている。

在日同胞社会の形成が「日韓併合」をその歴史的背景としているように、濟州道民社会の形成も同じ背景にあり、日本に渡航した動機は他地域（陸地）の同胞たちと大同小異である。

君代丸の就航

濟州島出身の在日同胞の一世はほとんどが君代丸（きみがよまる）に乗船して渡航した。濟州と大阪間を結ぶ定期船の君代丸は一九二二年一〇月から就航した。九三〇トンの客

船で、濟州から下関まで二四時間、下関から大阪まで二四時間の丸二日間の船旅で、月三回山地港から船出した。途中、朝天、金寧、城山浦、表善、西帰浦、高山翰林、涯月浦口などにも寄港したが、船が大きくて接岸できず、沖合い五〇〇〜一〇〇〇メートルの海上を子船が往来し、乗降した。

君代丸の一等室は船首の上側、二等室は船内の甲板の上、三等室は便所の付近で、料金はそれぞれ三円五〇銭、二円五〇銭、二円となっていた。うだが、日本側の記録には一二円五〇銭というのもあるという。いずれにせよ、君代丸は、濟州島出身の安い労働力を日本へ運ぶ運搬船であった。君代丸が就航した後、在日同胞有志が経営していた京城丸や伏木丸などが経営難で運輸を中断したという記録もある。

当時、渡航証明書の発給によつて、誰でも日本へ渡航することができ、濟州島内の一四〜四〇歳まで労働力旺盛な青壮年は、日本へ行きさえすれば、濟州島での生活よりはましではないかという漠然とした期待を持って君代丸に乗

船した。が、一九二五年頃の一時、不況の影響で、朝鮮総督府は渡航を制限する措置をとった。全渡航者の九〇％が經由する釜山などでは徹底的な取り締まりが実施されたが、その基準は、▼就職先の不確実者 ▼必要旅費を除いてお金が一〇円未満の者 ▼モルヒネ中毒者などであった。

しかし、日本の産業界は低廉な労働力を求めたために、この渡航規制は実効がなかった。当時の朝鮮総督府警務局の資料には「朝鮮人の労者は朝鮮で小作農とか日稼ぎに従事した関係で特別の技能がなく日本に渡つて後、大都市へ流入、あるいは転々しながら移住する人々も少なくない。そして朝鮮人の渡航は朝鮮人の飯屋で合宿するとかバラックを作つて多数の人数が集居している」と在日同胞の状況を記述している。

日本での生活
このように日本での生活は大部分が悲惨な生活を強いられ、濟州島出身の渡日一世も逆境の青・壮年期を余儀なく

された。一九二三年八月、大阪社会部調査課が大阪市内の朝鮮人労働者、職工、土工、日雇労働者一五〇人を標本抽出して調査した資料によると、平均賃金は職工二七円三三銭、土工三八円九〇銭、日雇労働者一六円二五銭で、一カ月の平均労働日数は職工は二五日、土工は二一日、日雇労働者は一六日である。

当時の日雇労働者の賃金は一日二〇〜四五銭で、電車賃が片道六銭、タバコが六銭ぐらだった。在日同胞は汗水たらして月一三円ぐらいを手にし、これで部屋代等を支出したが、中には儉約生活を励行し、八円ぐらいを貯蓄する者もいたという。食事は麦を二〇〜三〇％混入したもので、みそ汁とたくわんがつくのみ粗食で、まるで豚の餌と変わらないものだったという。このような状況に在日同胞たちも耐えかねて、時には人間並みの生活を要求する争議を開いた。関西地域での最初の労働争議は一九二二年、岸和田紡績会社で働く女工たちが差別待遇改善を要求したものであった。

在 外 道 民 施 策 案 内

◎在外道民子女民族教育実施

◇夏季郷土学校

- 時期：毎年 8 月（5 泊 6 日間）に施行
- 場所：済州道地方公務員教育院・済州大学校（主催）
- 対象：在外道民子女（2～4 世）
- 人員：80 名内外
- 教育内容：民俗文化体験、ハングル教育、道内視察、青少年交流等

◎在日同胞福祉施策

◇故郷訪問事業

- 時 期：毎年秋夕前 3 泊 4 日間
- 対 象：故郷訪問経験がない 65 歳以上在日の済州道民
- 主要内容：道内視察、省墓、親知訪問等
- 推進実績：97 年 49 名、98 年 45 名
- 99 推進計画：99 年 9 月中に 3 泊 4 日間、30 名内外

◎遺骨奉還事業

- 奉還対象：太平洋戦争犠牲者
および一般在在同胞遺骨
- 推進状況
名簿確保：徴用者 790 名、死亡者 656 名
済州道出身遺骨所在確認：6 具
（東京都祐天寺に奉安中）
奉還安葬：5 具（戦争犠牲者 3、一般遺骨 2）
慰霊祭奉行（98 年 3）
- 今後計画
祐天寺奉安中の 3 具の縁故者を探した後
奉還堆進
所在不明の遺骨に対しては縁故者
および所在地把握を継続推進

◎『在外道民 相談室』運営

◇設置背景

- 済州道が困難な時節、故郷発展のために物心両面で助力してくれた在外道民たちの恩恵に報答するため、在外道民たちの隘路事項を解決して故郷訪問時の各種便宜を提供するためのものである。

◇依頼方法および所要経費

- 利用媒体：電話、ファックス、郵便または直接来訪相談
- 所要経費：戸簿謄初本発給代行は済州道が負担、その他の民願は実経費に限り依頼者が負担

◇連絡先

- 住 所：済州道済州市蓮洞 312 - 1
済州道在外道民相談室
- Tel. (064) 740 - 1412. 747 - 4932.
Fax. (064) 740 - 1651
- E-Mail住所：iforchju@provin.cheju.kr

◎海外同胞故郷探し事業推進

◇趣 旨

- 海外居住同胞が忘れつつある母国愛と愛郷心を高め
- 済州人の自尊心と共同体意識提高で海外同胞たちの故郷発展参与

◇99 推進計画

- 少年体典、道民体典：99 年 5 月
（国内外済州道民）
- 漢拏文化祭、柑橘祝祭：99 年 10 月
（国内外済州道民）
- 民族との出会いの遊び場運営：99 年 7 月
（在日済州道民）
- 夏季郷土学校：99 年 8 月
（在日済州道民）
- 在日同胞故郷訪問事業：99 年 9 月
（在日済州道民）

◎具体的業務内容

1. 愛郷墓地内 安葬事業一切幹旋
2. 一般地域内 安葬事業一切（有碑）
3. 一般地域内 安葬事業一切（無碑）
4. 移墓一切 墓地1基当
5. 墓石築
6. 碑石（中南鳴石）小型一切
7. 碑石（中南鳴石）中型一切
8. 碑石（中南鳴石）大型一切
9. 祖上墓伐草代行 墓所 大・中・小型
距離不問
10. 戸籍関係全般
11. 合同慰霊祭（年1回）
12. 物件登録及び民事・刑事関係・司法書
士・弁護士等 幹旋
13. 僑民投資 誘致

济州道出身専門家カード
作成にご協力を

济州道庁では、内外100万济州人を対象に21世紀に向かって中枢的な役割を担当する济州道出身者で、各分野で活躍中の専門家の名簿を作成するために皆様の資料を集めております。

皆様の周囲の方で济州道出身の分野別専門家がいましたらカードにご記入の上、当協会までご返送下されば济州道庁へ転送致します。源籍地が济州道で配偶者及び直系卑属中の方で、博士学位を取得した方、弁護士、公認会計士、税理士、関税士、弁理士、鑑定評価士、建築士、技術士、技能長等国家による認定者。

◎養老事業

- 対象：65歳以上零細在外济州道民
- 事業内容：帰郷希望老人道内養老院
入所幹旋（永住帰国申告先行条件）



本協会専務理事
李永哲

在日济州道民のために、民願処理業務等を担当する「在外同胞 相談室」が济州道庁内に設置され運営されております。各種民願処理業務等は前記の通りですが、本協会事務所でもそれらの処理業務を代行しておりますので、お気軽にご相談、あるいはお問い合わせください。具体的業務は、济州道愛郷墓地安葬、戸籍整理訂正、等で、その他、土地・家屋登記所有の相談や招請の相談がかなりの件数にのぼっております。

【お問い合わせ】

関西济州道民協会

大阪市東成区玉津1-4-22

TEL 06-6973-3700

FAX 06-6973-6080

《济州道庁 在外道民 相談室》

TEL 064-740-1412

FAX 064-740-1651

編集後記



初代会長は「歩きながら考えて仲良くする」、二代目会長は「組織を楽しくしプラス思考でいこう」、そして三代目会長は「行動を起して物事を達成する」という理念で一生懸命頑張ってきました。そしていま、関済協は、六年目に入り、躍進の時期を迎えています。その証(あか)しは、何と云っても会費・賛助金のご協力です。そうした会員の強い郷土愛に守られ、支えられている組織が関済協そのものであります。

たほどの名君ですが、税金割当の朝議の席上、「済州島民に對しては村税を免じてやるほうがよいのではないか」という意見が出、その理由として、「山高多風災。谷深多水災。土薄多早災」と言われました。つまり「山高クシテ風災多シ。谷深クシテ水災多シ。土薄クシテ早災(ひでり)多シ」ということです。

そのように貧しい故郷を後にして、日本に渡来した一世の方々には、言葉もわからない、というところで、親戚を頼り、友達をたより、村の人をたよりにして、もろもろの相談をし、肩をよせあって、今日の地位を築かれました。そうした苦難の道を考えますと、この関済協が、もう一度そういう拠り所になるような会であってほしいと願うばかりです。

具体的には、結婚相談の問題とか、金の貸し借りはむずかしいでしょうが、仕事を互いに融通しあうとか、うわべだけの付き合いではなく、関済協へ行けばもう少し突っ込んだ話ができるという組織になつてほしいと思うわけであり、会費・賛助金は会の運営の血液でございます。立派な会であつても会員からの賛助金があれば運営はできません。ということから、会員各位にあらためて感謝の意を表します。

祖国は忍従の「IMF時代」を克服し、国際格付評価も回復しつつあつて、明るい展望のもとにあります。日本の不況も長引いていますが、GDPがプラスに転じ、これまた明るい兆しにあります。とはいえ、金融不況はまだまだ続くようであり、樂觀は許されませんが、このような時こそ、長い苦難の時代を乗り越きつてきた済州道民の不撓不屈の精神が活きてくると考えます。元氣を出してこの不況を乗り越りましょう。そのためにも関済協の諸事業はガッツで、出会いを大切にする雰囲気造成し、実践していきたくないと考えております。



企画副会長 朴茂範



企画部長 朴承福

企画副会長 朴茂範
企画部長 朴承福

関西済州道民協会 会報
関 済 協 第6号
 1999年7月10日発行
 発行所 関西済州道民協会
 会長 梁 斗 京
 企画編集 関西済州道民協会 企画部

関西済州道民協会
 大阪市東成区玉津
 1-4-22
 TEL 06-6973-3700 (代)
 FAX 06-6973-6080